

令和3(2021)年度 九州栄養福祉大学・大学院 教員情報

【リハビリテーション学部 理学療法学科】・【健康科学研究科 健康栄養学専攻】

タカハシ セイイチロウ
高橋 精一郎

TAKAHASHI Seiichiro 学長補佐(小倉南区キャンパス担当)・教授

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>【リハビリテーション学部 理学療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法学概論 ・運動療法学概論 ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・中枢神経障害系理学療法Ⅰ、中枢神経障害系理学療法Ⅱ ・理学療法研究法演習Ⅰ ・臨床理学療法手技演習 ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ <p>【リハビリテーション学部 作業療法学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢期障害作業療法学 <p>【九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 ・健康運動機能特論Ⅰ ・自律神経障害支援特論Ⅰ ・特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動機能障害理学療法分野 ■ 内部障害系理学療法分野
最 終 学 歴	山口大学 大学院医学研究科博士課程修了
学 位	博士 (医学)
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院 理学療法科勤務 (昭和46(1971)年4月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 (昭和53(1978)年4月)</p> <p>Heidelberg Universität Orthopädische Klinik 留学 (昭和53(1978)年5月)</p> <p>同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 講師 (昭和54(1979)年4月)</p> <p>同 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助教授 (昭和59(1984)年4月)</p> <p>学校法人 国際医療福祉大学 大学院 教授 (平成16(2004)年4月)</p> <p>学校法人 国際医療福祉大学 福岡リハビリテーション学部 理学療法学科 教授兼任 (平成17(2005)年4月)</p> <p>学校法人 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部学部長 (平成25(2013)年4月～令和3(2021)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部理学療法学科教授兼大学院教授 (平成25(2013)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 学長補佐(小倉南区キャンパス担当) (令和2(2020)年4月～現在に至る)</p> <p>学校法人東筑紫学園 評議員 (令和2(2020)年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【教科担当科目】</p> <p>理学療法概論、運動療法学、内部系理学療法学(呼吸理学療法学)、中枢神経障害系理学療法、理学療法研究法 他</p>

	<p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都看護専門学校(看護師科) (平成元(1989)年4月～平成15(2003)年10月) ・北九州保育福祉専門学校(介護福祉科) (平成3(1991)年4月～平成13(2001)年3月) ・麻生医療福祉専門学校(介護福祉科) (平成7(1995)年4月～平成12(2000)年3月) ・県立戸畑高等技術専門学校(介護サービス科) (平成9(1997)年4月～平成15(2003)年11月) ・福岡国際医療福祉学院(理学療法学科) (平成16(2004)年4月～平成18(2006)年3月) ・東筑紫学園九州リハビリテーション大学校(理学療法学科) (平成17(2005)年4月～平成24(2012)年3月) ・福岡国際医療福祉学院(看護学科) (平成22(2010)年4月～平成25(2013)年3月) ・国際医療福祉大学福岡看護学部 (平成23(2011)年4月～平成25(2013)年3月) ・九州栄養福祉大学リハビリテーション学部(理学療法学科) (平成23(2011)年4月～平成25(2013)年3月)
主な研究活動	<p>テーマ：自律神経活動を指標とした理学療法の効果検討と治療手法の開発</p> <p>【学会発表】</p> <p>(共)「重症心身障害児の背臥位時における下肢下垂法の考案と効果について —圧力分布測定システムと自律神経機能評価を指標として—」 奥田憲一、笠井 恵美子、吉開 歩、高橋精一郎、甲斐 悟、高嶋幸男他 (第43回日本理学療法学会、2008年)</p> <p>(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する呼吸抵抗運動が呼吸機能および自律神経系機能に及ぼす効果」 北野晃佑、高橋精一郎、甲斐 悟 (第32回九州理学療法士・作業療法士合同学会、2010年)</p> <p>(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対するストレッチのストレス軽減効果」 北野晃佑、高橋精一郎、甲斐 悟 (第50回日本理学療法学会、2014年)</p>
	<p>【論文】</p> <p>(共)「Heart Rate Variability during Two-Leg to One-Leg Standing Shift in the Elderly」 : Satoru Kai, Masami Nakahara, Shigeo Murakami, Ryuji Yoshimoto, Kazuo Watari, Yuko Ooura, Kaori Nakatomi, Seichiro Takahashi (J.Phys.Ther.Sci.20: 67-70,2008)</p> <p>(共)「筋萎縮性側索硬化症患者に対する咳嗽運動が呼吸機能と自律神経系機能へ及ぼす効果」 : 北野晃佑、甲斐 悟、高橋精一郎 (理学療法科学 27(2) : 155～160, 2012)</p> <p>(共)「圧迫刺激とスタティックストレッチングによる腓腹筋形状および足関節背屈可動域への影響」 : 西野琢也、山出宏一、吉岡正和、我嶋晋太郎、川久保淳司、高橋精一郎、森田正治 (理学療法科学 31(2) : 183～188, 2016)</p>
	<p>【著書】</p> <p>「理学療法概論 (第3版)」 (分担執筆) : 千住秀明監修, (神陵文庫 平成22(2010)年)</p> <p>「医学教育白書 2010年版」 (分担執筆) : 日本医学教育学会編, (篠原出版新社 平成22(2010)年)</p> <p>「実践! 理学療法スキル」 (分担執筆) : 小林賢 編, (医歯薬出版 平成22(2010)年)</p> <p>「治療の目でみるレクリエーション」 (監修) : 清水和代著, (神陵文庫 平成22(2010)年)</p> <p>「理学療法概論 (第4版)」 (分担執筆) : 千住秀明 監修, (神陵文庫 平成25(2013)年)</p> <p>「理学療法管理学」 (分担執筆) : 奈良 勲 編著者代表, (医歯薬出版 平成30(2018)年)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・(社)福岡県理学療法士会会員 (昭和46(1971)年8月～現在に至る) ・ 同 理事 (昭和52(1977)年4月～平成19(2007)年3月) ・ 同 監事 (平成19(2007)年4月～平成21(2009)年3月) ・(社)日本理学療法士協会全国代議員 (平成5(1993)年4月～平成19(2007)年3月) ・ 同 倫理委員会委員長 (平成11(1999)年4月～平成14(2002)年3月) ・福岡県障害者施策推進委員会委員 (平成16(2004)年11月～平成30(2018)年12月) ・第43回日本理学療法学会副大会長 (平成18(2006)年5月～平成20(2008)年6月) ・(社)日本理学療法士協会教育局教育部部長 (平成19(2007)年4月～平成25(2013)年5月) ・ 同 学術誌(理学療法科学)査読委員 (平成20(2008)年4月～平成25(2013)年3月) ・日本理学療法科学学会学術誌「理学療法科学」査読委員 (平成21(2009)年1月～平成25(2013)年3月)

	<ul style="list-style-type: none"> ・(公社) 日本理学療法士協会生涯教育業務執行委員会委員 (平成25(2013)年6月～平成28(2016)年6月) ・(公社) 日本理学療法士協会臨床実習ガイドラインワーキンググループ長 (平成25(2013)年6月～平成26(2014)年5月) ・(公社) 日本理学療法士協会企画研修小委員会委員 (平成27(2015)年6月～令和元(2019)年5月) ・(社) 全国リハビリテーション学校協会常任理事 (令和元(2019)年6月～現在に至る)
所属学会	日本理学療法士学会 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 日本公衆衛生学会 日本自律神経学会
受賞歴	日本理学療法士学会 学会奨励賞 (平成元(1989)年) 平成17年 日本理学療法士協会協会長賞 受賞 (平成17(2005)年) 厚生労働大臣表彰 (平成17(2005)年)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 ・キャリア教育 <p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・神経障害系運動療法Ⅱ、中枢神経疾患理学療法Ⅱ、神経障害系運動療法Ⅱ ・日常生活活動演習、動作分析演習Ⅰ ・理学療法管理学 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ <p>[食物栄養学部 食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション概論 <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 ・リハビリテーション学特論Ⅰ ・健康運動機能特論Ⅰ、健康運動機能特論Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動療法治療学 ■ 日常生活活動 ■ 脊髄損傷 ■ 介護予防・健康づくり
最 終 学 歴	九州芸術工科大学 大学院後期課程単位取得退学 佛教大学 社会学部社会福祉学科 (通信課程)
学 位	社会学士
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院 理学診療科入職 (昭和44(1969)年4月～昭和47(1972)年5月)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 (昭和47(1972)年5月～昭和47(1972)年9月)</p> <p>英国ストーク・マンデビル病院留学：労働省奨学生 (昭和47(1972)年9月～昭和48(1973)年9月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 講師 (昭和48(1973)年9月～昭和55(1980)年1月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助教授 (昭和55(1980)年1月～平成3(1991)年3月)</p> <p>労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 教授及び理学療法学科長 (平成3(1991)年4月～平成16(2004)年3月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 教学部長・理学療法学科教授並びに理学療法学科長 (平成16(2004)年4月～平成20(2008)年3月)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成20(2008)年4月～平成23(2011)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長・リハビリテーション学部 学部長、教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科教授 (平成23(2011)年4月～平成25(2013)年3月)</p> <p>学校法人東筑紫学園 評議員 (平成23(2011)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長、理学療法学科 教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学校 副学校長・教学部長、理学療法学科 教授 (平成25(2013)年4月～平成26(2014)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長 (平成25(2013)年4月～平成29(2017)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 大学院健康科学研究科 教授 (平成26(2014)年4月～現在に至る)</p>

	<p>九州栄養福祉大学 学長補佐 (小倉南区キャンパス担当) (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス就職指導室長 (平成 31(2019)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス就職指導室相談役 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p> <p>日本リハビリテーション発祥地・九州リハ大記念館館長 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p>
<p>教育上の業績</p>	<p>【教育実践例】</p> <p>(理学療法士教育専門担当科目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物理療法学」 (牽引・マッサージ: 昭和 48(1973)年 10 月～平成 2(1990)年 3 月、 一般物理療法学: 平成 3(1991)年 4 月～平成 15(2003)年 3 月) ・「検査測定 (理学療法評価学)」 (昭和 53(1978)年 4 月～平成 15(2003)年 3 月) ・「運動療法: 機能統合訓練」 (現. 神経障害系運動療法) (昭和 48(1973)年 10 月～現在に至る) ・「日常生活動作 (活動) 学」 (現. 日常生活活動分析論、日常生活活動支援) (昭和 48(1973)年 10 月～現在に至る) ・「地域保健学」 (平成 16(2004)年 4 月～平成 23(2011)年 3 月) ・「リハビリテーション概論」 (平成 16(2004)年 4 月～現在に至る) ・「キャリア教育」 (平成 24(2012)年～現在に至る)
	<p>(教科書等の執筆)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びやすい リハビリテーション論」 (編集・分担執筆) (金芳堂 平成 11(1999)年 初版～第 2 版) ○ 「日常生活活動 (ADL)」 (編集・分担執筆) (神陵文庫 平成 11(1999)年 初版～第 3 版) ○ 「標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学」 (分担執筆) (医学書院 平成 13(2001)年 初版～第 6 版) ○ 「標準理学療法学 臨床実習とケーススタディ」 (分担執筆) (医学書院 平成 13(2001)年 初版～第 2 版) ○ 「日常生活活動 (ADL) 評価のポイント」 (単行) (日医総研 平成 15(2003)年) ○ 「理学療法学概論」 (分担執筆) 神陵文庫 (平成 16(2004)年 第 2 版～第 3 版) ○ 「生活環境論」 (編集・分担執筆) 神陵文庫 (平成 18(2006)年 初版) ○ 「理学療法事典」 (分担執筆) (医学書院 平成 18(2006)年) ○ 「理学療法概論」 (分担執筆) (医歯薬出版 平成 19(2007)年 第 4 版～第 6 版) ○ 「義肢装具学」 (編集・分担執筆) (神陵文庫 平成 20(2008)年 初版) ○ 「新版 日常生活活動 (ADL) 評価と支援の実際」 (分担執筆) (医歯薬出版 平成 22(2010)年 初版) ○ 「服部リハビリテーション技術全書」 (分担執筆・編集協力) (医学書院 平成 26(2014)年第 3 版) ○ 「脊髄損傷理学療法マニュアル」 (分担執筆) (文光堂 平成 26(2014)年 第 2 版) ○ 「理学療法管理学」 (編著者・分担執筆) (医歯薬出版 平成 30(2018)年 初版、同 令和 2(2020)年 改訂) ○ 「理学療法概論」 (分担執筆: 奈良勲 編集) (医歯薬出版 平成 31(2019)年 第 7 版) ○ 「新版 日常生活活動 (ADL) 第 2 版 評価と支援の実際」 (分担執筆: 伊藤利之・他編集) (医歯薬出版 令和 2(2020)年) ○ 「日本の作業療法発達史 —萌芽期の軌跡を尋ねて—」 (分担執筆: 矢谷令子・他編集) (CBR 令和 3(2021)年)
	<p>(教育に関する職位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授および学科長 (平成 3(1991)年 4 月～平成 16(2004)年 3 月) ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び教学部長並びに理学療法学科長 (平成 16(2004)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) ・専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学科長 (平成 20(2008)年 4 月～平成 23(2011)年 3 月)

	<ul style="list-style-type: none"> ・九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長 リハビリテーション学部学部長・教授 兼 専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科教授及び副学長 (平成23(2011)年4月～平成25(2013)年3月) ・九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス 副学長 (平成26(2014)年4月～平成29(2017)年3月) ・九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授 (平成26(2014)年4月～現在に至る) ・九州栄養福祉大学 学長補佐 (小倉南区キャンパス担当) (平成29年4月～令和2年3月)
主な研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「理学療法士・作業療法士教育における解剖学実習ことはじめ」 (コ・メディカル形態機能学会第13回学術集会 特別講演 平成26(2014)年9月20日 (北九州市)) 2. 「蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ-SFを用いて～」(共著) (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 pp81～91) 3. 「介護予防におけるロコモティブシンドロームについて」 (北九州介護予防訪問員研修会 講演 平成27(2015)年1月6日 (北九州市)) 4. 「理学療法士の役割と機能 ～自立を目指す地域ケアへのアプローチ～」 (福岡県糸島保健福祉事務所 在宅医療実務担当者会議 講演 平成27(2015)年3月13日 (糸島市)) 5. 「新たな50年に向けて いま伝えたいこと 11」 (理学療法ジャーナル Vol.49. No.2 pp175～179) 6. 「理学療法の50年の歩みと展望 一新たなる可能性への挑戦 －わが国の理学療法の歴史と継承 九州からの発信」 (第50日本理学療法学会大会 メインシンポジウム I 平成27(2015)年6月6日 (東京)) 7. 「歩行支援ロボット Tree の紹介 ー産学官民の連携を通してー」 (地域リハビリテーション Vol.10 No.8 pp552～558 2015) 8. 「理学療法の50年の歩みと展望 一新たなる可能性への挑戦ー九州からの発信」 (理学療法学 Vol.42 No.8 pp628～629 2015) 9. 「理学療法の幕開け/理学療法の黎明期を支えたりハビリテーション機器」 (理学療法ジャーナル Vol.50 No.1 pp i～vi 2016) 10. 「E・G体操 ～みんなでEnjoy Genkiになろう!!～」監修 (DVD) (北九州市認知症支援・介護予防センター企画・製作 平成28(2016)年3月) 11. 「地域で支える在宅医療 多職種連携の本質を探る 地域における多職種連携 ー リハビリテーション専門職の役割は何か ー」 (日本ケアマネジメント学会 第15回研究大会 in 北九州 シンポジウム 平成28(2016)年6月18日 北九州市国際会議場) 12. 「高齢者の身体機能と介護予防」 (カフェオレンジカフェマスター研修 教育講演 平成28(2016)年7月24日 認知症・介護予防センター 北九州市) 13. 「社会の中の理学療法」日本理学療法士協会 生涯学習テキスト (平成29(2017)年3月) 14. 「理学療法50年の歩みと展望 新たなる可能性 ～福岡県理学療法士会の歩み～」 (福岡県理学療法士会 第100回学術研修大会記念講演 平成29(2017)年6月18日 福岡アクロス) 15. 「平成28年度要支援高齢者向け介護予防教室 モデル事業： 小倉北区・八幡西区におけるデータ分析報告 報告書」 (北九州市保健福祉局 地域福祉部、認知症支援・介護予防センター 平成30(2018)年6月) 16. 「高齢者の身体機能と介護予防」 (カフェオレンジカフェマスター研修 教育講演 平成29(2017)年6月17日 認知症・介護予防センター 北九州市) 17. 「健康づくりと地域連携」公開シンポジウム 健康づくり・地域づくり・そして就労へ」 (全国地域作業療法研究大会 第23回学術大会 シンポジウム 平成30(2018)年2月25日 北九州市国際会議場) 18. 「介護ロボットの効果的な活用のための方法と手順 (移乗介助 (非装着) マニュアル」 (監修) 厚生労働省委託事業報告書 (平成31(2019)年3月 北九州市)

	<p>19. 「高齢者の身体特性と健康長寿を支援する」 (休職中や職場復帰計画中の女性薬剤師のためのセミナー講演 令和元(2019)年10月20日 天神チクモクビル 福岡市)</p> <p>20. 「生きをひき取る ～～元気高齢者でいるために～」 (小倉南区守恒校区文化祭 健康講演会 令和元(2019)年11月17日 守恒市民センター 北九州市)</p> <p>21. 「高齢者の身体特性と環境づくり」 (高齢者等住宅相談員(建築士)「すこやか住宅改造助成事業施工業者」更新研修会) 令和2(2020)年8月4日・25日 北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」</p>
主な社会活動	<p>【協会・行政等委員会委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会理事(学術担当・事務局長・副会長) (昭和45(1970)年4月～17年間) ・福岡県理学療法士会会長 (昭和63(1988)年4月～10期20年間) ・全国理学療法士・作業療法士学校連絡協議会理事 (平成12(2000)年4月～7年間) ・北九州市介護認定審査会平準化委員会委員 (平成12(2000)年4月～現在に至る) ・北九州市地域リハビリテーションケース会議主催 (平成15(2003)年4月～現在に至る) ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会委員 座長 (現:北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議) (平成18(2006)年4月～現在に至る) ・北九州市高齢者介護の質の向上委員会介護保険部会会長 (平成18(2006)年4月～現在に至る) ・北九州市障害程度区分認定審査会調整委員 (平成19(2007)年4月～現在に至る) ・福岡県介護予防市町村支援委員会委員 (平成19(2007)年4月～現在に至る) ・厚生労働省医道審議会理学療法士・作業療法士専門部会委員 (平成20(2008)年4月～令和元年3月) ・福岡県老人医療費検討委員会委員(現:福岡県医療費適正化計画推進委員会 副委員長) (平成21(2009)年4月～現在に至る) ・リハビリテーション教育評価機構評価員 (平成25(2013)年4月～現在に至る)
所属学会	<p>日本理学療法士協会 名誉会員 (令和2(2020)年6月)</p> <p>日本脊髄障害医学学会</p> <p>日本リハビリテーション医学会</p> <p>日本人間工学会</p>
受賞歴	<p>日本リハビリテーション工学協会福祉機器コンテスト'94 グランプリ (平成6(1994)年8月)</p> <p>厚生労働大臣表彰 (平成17(2005)年11月)</p> <p>社団法人日本理学療法士協会協会長表彰 (平成18(2006)年5月)</p> <p>社団法人福岡県理学療法士会特別功労賞 (平成19(2007)年6月)</p> <p>九州理学療法士・作業療法士合同学会合同士会長会議特別表彰 (平成20(2008)年11月)</p> <p>北九州市市制50周年記念市表彰(功労章) (平成25(2013)年2月)</p> <p>日本リハビリテーション教育評価機構(感謝状) (令和元(2019)年5月)</p> <p>公益社団法人福岡県理学療法士会設立50周年記念表彰 (令和元(2019)年9月)</p> <p>社団法人日本理学療法士協会50周年特別表彰 (令和2(2020)年5月)</p>

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学Ⅰ・運動学Ⅱ (理学療法学科、作業療法学科) ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・運動療法学演習 ・臨床運動分析 ・臨床動作分析学Ⅰ ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義Ⅰ、健康科学特別講義Ⅱ ・健康科学研究法特論講義、健康科学研究法特論演習 ・健康運動機能特論Ⅰ、健康運動機能特論Ⅱ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動器疾患の予防と対策 ■ 姿勢制御メカニズムの解析 ■ 理学療法卒前・卒後教育のあり方について
最終学歴	福岡県立大学院 人間社会学研究科地域教育支援専攻卒業
学位	修士 (地域教育支援)
職歴	<p>九州労災病院リハビリテーション診療科 (5年間)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校理学療法学科専任講師 (9年間)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校専任講師</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 (平成28(2016)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 副学部長 (平成31(2019)年4月～令和2(2020)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成31(2019)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 学部長 (令和2(2020)年4月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「虚弱高齢者 (体力消耗患者) に対するリハビリテーション」 2. 「臨床実習指導のあり方」 3. 「神経運動器協調運動のトレーニング内容と効果」 4. 「姿勢制御能力から見た転倒予防とパフォーマンスの向上」 5. 「解剖による関節機能面の解析について」 6. 「スポーツ傷害後の理学療法のあり方と予防法」
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ講習会講義 (初級および中級) ・行橋市 介護認定審査会
所属学会	<p>理学療法士協会・学会</p> <p>日本物理療法学会</p> <p>理学療法科学学会</p> <p>九州教育学会</p> <p>コ・メディカル形態機能学会</p>

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動学Ⅰ・運動学Ⅱ (理学療法学科、作業療法学科) ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・運動療法学演習 ・臨床運動分析 ・臨床動作分析学Ⅰ ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義Ⅰ、健康科学特別講義Ⅱ ・健康科学研究法特論講義、健康科学研究法特論演習 ・健康運動機能特論Ⅰ、健康運動機能特論Ⅱ
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 運動器疾患の予防と対策 ■ 姿勢制御メカニズムの解析 ■ 理学療法卒前・卒後教育のあり方について
最終学歴	福岡県立大学院 人間社会学研究科地域教育支援専攻卒業
学位	修士 (地域教育支援)
職歴	<p>九州労災病院リハビリテーション診療科 (5年間)</p> <p>労働福祉事業団九州リハビリテーション大学校理学療法学科専任講師 (9年間)</p> <p>専門学校九州リハビリテーション大学校専任講師</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 (平成28(2016)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 副学部長 (平成31(2019)年4月～令和2(2020)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成31(2019)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 学部長 (令和2(2020)年4月～現在に至る)</p>
主な研究活動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「虚弱高齢者 (体力消耗患者) に対するリハビリテーション」 2. 「臨床実習指導のあり方」 3. 「神経運動器協調運動のトレーニング内容と効果」 4. 「姿勢制御能力から見た転倒予防とパフォーマンスの向上」 5. 「解剖による関節機能面の解析について」 6. 「スポーツ傷害後の理学療法のあり方と予防法」
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツ講習会講義 (初級および中級) ・行橋市 介護認定審査会
所属学会	<p>理学療法士協会・学会</p> <p>日本物理療法学会</p> <p>理学療法科学学会</p> <p>九州教育学会</p> <p>コ・メディカル形態機能学会</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科、作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学倫理学 <p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動療法学概論 ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・義肢装具学 ・義肢装具学演習 ・理学療法総合演習 ・理学療法研究法演習Ⅱ ・理学療法卒業研究 ・地域理学療法学演習 ・生活環境支援論 ・臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学研究法特論演習 ・リハビリテーション学特論 ・健康運動機能特論Ⅰ ・特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 義肢、装具 ■ 福祉用具 ■ リハビリテーション医学
最 終 学 歴	放送大学 教養学部 生活と福祉学科
学 位	博士 (医学) 産業医科大学 乙第 413 号 (平成 26(2014)年 2 月)
職 歴	<p>兵庫県事業団 兵庫県リハビリテーションセンター 入職 (昭和 45(1970)年 4 月)</p> <p>学校法人 産業医科大学病院 リハビリテーション部 入職 (昭和 54(1979)年 4 月)</p> <p>学校法人 東筑紫学園 専門学校 九州リハビリテーション大学校 (平成 20(2008)年 4 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科 教授 (平成 24(2012)年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科長 (平成 27(2015)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p>
教育上の業績	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (昭和 45(1970)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) ・長崎リハビリテーション学院 (義肢学 非常勤講師) (平成 13(2001)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) ・国際医療福祉大学 (義肢装具学 非常勤講師) (平成 19(2007)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) ・九州看護福祉大学 (生活環境論 非常勤講師) (平成 19(2007)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月)
主な研究活動	<p>【著書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「義肢装具学 第 4 版」 (平成 21(2009)年 3 月) ○「よくわかる脳卒中介護指導教本」 (平成 21(2009)年 7 月) ○「関節連鎖～リンクする身体」 (平成 23(2011)年 5 月) ○「理学療法診療ガイドライン第 1 版(2011)」 14. 下肢切断 (平成 23(2011)年 10 月) ○「すぐに役立つ効率的理学療法の実践」 (平成 24(2012)年 5 月) ○「理学療法概論」 (平成 25(2013)年 3 月) ○「筋骨格障害系理学療法学」 (平成 26(2014)年 2 月) ○「服部リハビリテーション技術全書」 (平成 26(2014)年 4 月)

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「義肢装具学第2版」 (平成 27(2015)年 3 月) ○ 「図解運動療法ガイド」 (平成 29(2017)年 3 月) ○ 「義肢装具学」 (平成 30(2018)年 3 月) ○ 「理学療法管理学」 (平成 30(2018)年 12 月)
	<p style="text-align: center;">【学術論文】</p>
	<p>1. 「下腿義足のソケットの開発変遷」 (理学療法ジャーナル 42(7)607-6 平成 20(2008)年 7 月)</p>
	<p>2. 「動作障害に対する理学療法アプローチの考え方」 (理学療法 27(1)6-16 平成 22(2010)年 1 月)</p>
	<p>3. 「臨床医学の展望リハビリテーション医学」 (日本医事新報 4530 69 平成 23(2011)年 2 月)</p>
	<p>4. “Community-based survey of amputation derived from the physically disabled person’s certification in Kitakyushu city, Japan.” (Prosthetics and Orthotics International 36(2)196-202 平成 24(2012)年 6 月)</p>
	<p>5. 「運動療法の変遷と今後の展望」 (理学療法 30 (1) 11-18 平成 25(2013)年 1 月)</p>
	<p>6. 「TSB および PTB 式固い義足のインターフェイス特性 ーF スキャン・センサーを用いた圧力分布特性ー」 (九州栄養福祉大学研究紀要 10 37-45 平成 25(2013)年 12 月)</p>
	<p>7. 「下肢切断 理学療法診療ガイドライン」 (理学療法学 42 : 296-304 平成 27(2015)年 6 月)</p>
	<p>8. 「入試形態の違いからみた運動療法学概論小テストの結果比較」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:1-6 平成 27(2015)年 12 月)</p>
	<p>9. 「高齢透析患者に対する低負荷運動療法についての一考察」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:19-26 平成 27(2015)年 12 月)</p>
	<p>10. 「高齢者のリハビリテーションにおける疲労回復と栄養状態との関連性」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:125-134 平成 27(2015)年 12 月)</p>
	<p>11. 「超高齢者に対する理学療法の効果-適性運動量の検討」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12:135-144 平成 27(2015)年 12 月)</p>
	<p>12. 「理学療法士の臨床活動における継往開来」 (理学療法ジャーナル 49:1077-1084 平成 27(2015)年 12 月)</p>
	<p>13. 「日本支援工理学療法学会の取り組み-学会の現状と今後の展望」 (福祉介護テクノプラス Jan.1:1-3 平成 28(2016)年 1 月)</p>
	<p>14. 「クリニカル・クラークシップにおける学修到達レベルの数値化」 (九州栄養福祉大学研究紀要 13 : 207-213 平成 28(2016)年 12 月)</p>
	<p>15. 「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因の変化」 (九州栄養福祉大学研究紀要 13:215-221 平成 28(2016)年 12 月)</p>
	<p>16. 「理学療法の様々な領域に支援工学的視点をどのように生かすか」 (理学療法学 44:63-64 平成 29(2017)年 10 月)</p>
	<p>17. 「解剖・生理・運動学の 3 領域が理学療法士国家試験に与える影響」 (九州栄養福祉大学研究紀要 14 : 119-124 平成 29(2017)年 12 月)</p>
	<p>18. 「回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者における エネルギー消費推定法の妥当性の検証」 (九州栄養福祉大学研究紀要 14:131-138 平成 29(2017)年 12 月)</p>
	<p>19. 「回復期リハビリテーション病棟患者におけるエネルギー推定消費量と投与量の年代別特性」 (九州栄養福祉大学研究紀要 15:43-52 平成 30(2018)年 12 月)</p>
	<p>20. 「理学療法士模擬試験成績を活用した学習指導効果の評価」 (九州栄養福祉大学研究紀要 16:37-42 令和元(2019)年 12 月)</p>

21. 「理学療法学科の学内実習における学生満足度調査」
 (九州栄養福祉大学研究紀要 17:25-30 令和2(2020)年12月)

【学会発表等】

第7回東アジアヘルスプロモーション会議 in 北九州市 2009 「身体障害者手帳診断書に基づく北九州市における切断調査」 (平成21(2009)年9月)
認定理学療法士必須研修会(補装具) 「装具療法における理学療法介入(基礎と応用)(講演)」 (平成22(2009)年8月)
第22回長崎県理学療法士学会 「生活環境支援における理学療法介入の基本的理解に向けて」 (平成23(2011)年2月)
第7回中国血友病治療セミナー 「血友病の理学療法の実際」 (平成23(2011)年4月)
高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会 「高齢者・障がい者の心身機能特性」 (平成23(2011)年4月)
認定理学療法士必須研修会(補装具) 「装具療法における理学療法介入(基礎と応用)」 (平成23(2011)年11月)
高齢者等住宅相談員・すこやか住宅助成事業施行業者研修会 「高齢者の身体特性と介護予防-高齢者の転倒」 (平成24(2012)年4月)
第30回日本私立医科大学理学療法学会 「理学療法温故知新-過去、現在、未来-」 (平成24(2012)年10月)
第10回さつまの会 「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」 (平成25(2013)年8月)
第29回日本義肢装具学会学術大会 「Meet to the mentor 義足とリハビリテーション」 (平成25(2013)年10月)
全国労災病院リハビリテーション技師会 第42回全国研修会 「脳卒中下肢装具療法の最新の知見」 (平成25(2013)年10月)
平成25年度第5回生活環境支援理学療法研究部会学術集会セミナー 「下肢装具を生活環境支援に生かす ～生活環境支援および臨床の側面から(パネルディスカッション)」 (平成25(2013)年12月)
第49回日本理学療法学会学術大会専門領域研究部会 「生活環境支援理学療法研究部会シンポジウム我々が考えてきた生活環境支援 ～過去から現在、そして未来への提言～(シンポジウム)」 (平成26(2014)年6月)
北九州市 福祉機器専門研修会 「義肢・装具」 (平成26(2014)年6月)
第30回日本義肢装具学会学術大会 「北九州市における切断者の地域調査に基づく外傷性切断者の特性について」 (平成26(2014)年10月)
認定理学療法士必須研修会(補装具) 「理学療法における装具療法の介入」 (平成26(2014)年11月)
第1回日本支援工学理学療法学会 「未来の日本を支える生活支援工学-義肢・装具領域からの提言-」 (平成26(2014)年12月)
第15回さつまの会 「理学療法における運動療法と義肢装具との融合」 (平成27(2015)年3月)
第11回Resta 勉強会 「運動療法と義肢装具の融合-理学療法における義肢装具の臨床的意義、効果と限界を知る-」 (平成27(2015)年5月)
第33回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会 「高齢入院患者に対する低強度運動の効果」 (平成27(2015)年10月)

	<p>第 33 回日本私立医科大学理学療法研究会学術集会 「高齢者のリハビリにおける栄養状態の相違による検討・疲労回復と運動能力面について」 (平成 27(2015)年 10 月)</p> <p>平成 28 年理学療法士講習会基礎編 (理論) 「脳卒中患者に対する装具療法の基本 ～理学療法における装具療法の臨床的意義、効果と限界について～」 (平成 28(2016)年 7 月)</p> <p>日本理学療法士協会主催 認定必須研修会 「補装具と生活 (住) 環境支援に関する理学療法の基本となる考え方」 (平成 28(2016)年 10 月)</p> <p>第 52 回日本理学療法学会大会 日本支援工学理学療法学会 シンポジウム 「理学療法の様々な領域に支援工学的視点をどのように生かすか」 (平成 29(2017)年 5 月)</p> <p>日本理学療法士協会主催 認定必須研修会 「補装具と生活 (住) 環境支援に関する理学療法の基本となる考え方」 (平成 29(2017)年 9 月)</p> <p>山口県理学療法士会 東部ブロック定期理学療法研修会 「脳卒中患者に対する装具療法の考え方とその実践」 (平成 30(2018)年 2 月)</p> <p>第 102 回福岡県理学療法士学術研修大会 「日本支援工学理学療法学会のこれまでの道程とこれから」 (令和元(2019)年 8 月)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会副会長 (昭和 62(1987)年 4 月～平成 19(2007)年 3 月まで) ・日本義肢装具学会評議委員 (平成 5(1993)年 9 月) ・水巻町在宅福祉住宅改造相談調整会議委員 (平成 7(1995)年 10 月) ・日本理学療法士協会生活環境支援系理学療法研究部会長 (平成 15(2003)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月) ・日本私立医科大学理学療法研究会会長 (平成 15(2003)年 10 月～平成 25(2013)年 9 月まで) ・日本義肢装具学会理事 (平成 18(2006)年 9 月～平成 24(2012)年 9 月まで) ・血友病理学療法研究会会長 (平成 20(2008)年 5 月) ・日本私立医科大学理学療法研究会監事 (平成 25(2013)年 10 月～令和元(2019)年 9 月) ・日本理学療法士協会日本支援工学理学療法学会運営幹事 (平成 26(2014)年 4 月) ・日本理学療法士協会 第 6 回日本支援工学理学療法学会学術集会会長 (平成 29(2017)年 9 月)
所属学会	<p>日本理学療法士学会 日本義肢装具学会 日本支援工学理学療法学会 世界義肢装具連盟</p>
受賞歴	<p>日本義肢装具学会 飯田賞奨励賞 (平成 8(1996)年 11 月)</p> <p>第 9 回総合リハビリテーション賞 (平成 13(2001)年 9 月)</p> <p>日本理学療法士協会 協会賞 (平成 16(2004)年 5 月)</p> <p>厚生労働大臣賞 (平成 17(2005)年 11 月)</p> <p>日本義肢装具学会 飯田賞本賞 (平成 22(2010)年 11 月)</p> <p>日本義肢装具学会 名誉会員 (平成 30(2018)年 11 月)</p>
学会認定資格	<p>日本理学療法士協会 専門理学療法士 (生活環境支援理学療法) (平成 22(2010)年 4 月)</p> <p>日本義肢装具学会認定士 (平成 30(2018)年 4 月)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害系理学療法 I ・人間発達学 ・理学療法基礎演習、理学療法専門演習 ・理学療法卒業研究 ・理学療法ゼミナール I、理学療法ゼミナール II、理学療法ゼミナール III ・臨床実習 I、臨床実習 II、臨床実習 III、臨床実習 IV <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 I、健康科学特別講義 II ・健康科学研究法特論講義、健康科学研究法特論演習 ・小児リハビリテーション支援特論 I、小児リハビリテーション支援特論 II ・特別研究 I、特別研究 II
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小児理学療法 (特に重症心身障害) ■ 人間発達学
最 終 学 歴	久留米大学大学院 医学研究科 博士課程 個別最適医療系 高次脳疾患学専攻 単位修得退学
学 位	博士 (医学) 久留米大学 甲第 1197 号
職 歴	<p>九州子ども発達研究センター 指導員 (昭和 60(1985)年 4 月～昭和 62(1987)年 3 月)</p> <p>佐賀整肢学園 医療課 理学療法士 (平成 3(1991)年 4 月～平成 7(1995)年 3 月)</p> <p>旭川荘療育センター児童院 療育課 理学療法士 (平成 7(1995)年 4 月～平成 14(2002)年 3 月)</p> <p>旭川荘療育センター児童院 療育課 療育主任, 理学療法士 (平成 14(2002)年 4 月～平成 16(2004)年 3 月)</p> <p>柳川療育センター 診療技術科 主任, 理学療法士 (平成 16(2004)年 4 月～平成 20(2008)年 5 月)</p> <p>柳川療育センター リハビリテーション室 室長代理, 理学療法士 (平成 20(2008)年 6 月～平成 22(2010)年 5 月)</p> <p>柳川療育センター リハビリテーション室 室長, 理学療法士 (平成 22(2010)年 6 月～平成 24(2012)年 3 月)</p> <p>医療福祉センター聖ヨゼフ園 リハビリテーション部 次長, 理学療法士 (平成 24(2012)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 教授 (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○理学療法士養成校実習生の臨床指導 (平成 5(1993)年～平成 28(2016)年)</p> <p>○国際医療福祉大学 (小児理学療法学 II 非常勤講師) (平成 20(2008)年 10 月～平成 21(2009)年 9 月)</p> <p>○福岡和白リハビリテーション学院 (人間発達学 非常勤講師) (平成 26(2014)年 4 月～平成 28(2016)年 9 月)</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>「感覚入力力で挑む 感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ」(分担執筆 p245-p248) 齊藤秀之 加藤 浩 金子文成 編, (文光堂 平成 28(2016)年)</p> <p>「小児理学療法学テキスト」改訂第 3 版 (分担執筆: 14 章 重症心身障害児 (者) p209-p223) 監修 細田多穂 編集 田原弘幸 大城昌平 小塚直樹 (南江堂 平成 30(2018)年)</p> <p>【訳書】</p> <p>「脳性まひ児の早期治療, 第 2 版 (原著 第 3 版)」(分担訳 p281-p301) 今川忠男 監訳, (医学書院 平成 15(2003)年)</p>

「**脳性まひ児の24時間姿勢ケア**」『The Chailey Approach to Postural Management』
 (分担訳 p74-p84、p158-p162) 今川忠男 監訳, (三輪書店 平成18(2006)年)

【学術論文】

1. 奥田憲一：「**重症心身障害児に対する背臥位ポジショニング法の考案と効果に関する研究**」
 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科修士論文要旨. 2007 ; 105-106.
2. 高嶋幸男, 高橋精一郎, 甲斐 悟, 永田誠一, 奥田憲一, 中村公紀
 :「**小児および成人の脳梗塞における脳機能改善の予測と可塑性に関する基盤研究**」
 :「**脳機能画像と脳病理**」 国際医療福祉大学紀要 第13(2)号. 2009 ; 118-118.
3. 奥田憲一：「**小児の24時間姿勢ケア**」 理学療法学.2009 ; 36,suppl(1) : 174-174.
4. 糸数直哉, 高嶋幸男, 廣瀬彰子, 中川慎一郎, 奥田憲一, 松尾久美子
 :「**重症心身障害児・者における頭部ヘリカルCTの有用性**」
 日本重症心身障害学会誌.2009 ; 34 : 191-196.
5. 奥田憲一：「**小児の24時間姿勢ケア**」 理学療法学.2009 ; 36 : 529-530.
6. 高嶋幸男, 松藤まゆみ, 高嶋美和, 奥田憲一：「**ダウン症と加齢**」
 Journal of Clinical Rehabilitation.2011 ; 20 : 541-547.
7. 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也, 松永美幸, 中村早紀, 筏ユカリ, 長野清一郎, 濱本孝弘, 加藤 浩
 :「**体重免除時の自動介助運動が重症心身障害者の股関節周囲筋の筋活動に及ぼす効果**」
 理学療法学.2015 ; 42 : 188-189.
8. 奥田憲一
 :「**体重免除環境における全身運動が重症心身障害者の下肢筋活動と関節可動域に及ぼす影響**」
 久留米医学会雑誌.2015 ; 78 : 151-161.
9. 吉田大記, 高嶋幸男, 森田正治, 奥田憲一, 岩田欧介, 岩田幸子
 :「**超早期産～正常産における脳発達障害の特異性—脳病理から—**」
 理学療法科学.2015 ; 30 : 737-740.
10. 岸本光夫, 奥田憲一, 山川真千子
 :「**特別鼎談 重症心身障害ってなんだろう?**」
 小児リハビリテーション.2019 ; 4 : 11-19
11. 奥田憲一
 :「**重症心身障害児・者が示す非対称変形の定量評価**」
 小児リハビリテーション.2019 ; 5 : 49-58
12. 西島和秀, 奥田憲一
 :「**一事例による快反応と瞬目を指標とした重症心身障害児における姿勢の快適性の検討**」
 作業療法.2019 ; 38 : 721-726
13. 早川智之, 河上淳一, 吉田遊子, 奥田憲一, 大峯三郎
 :「**理学療法学科の学内実習における学生満足度調査**」
 九州栄養福祉大学研究紀要. 2020 ; 17 : 25-30

【学会発表】

1. 奥田憲一, 松尾久美子, 高嶋幸男
 :「**下腿を下垂させた背臥位ポジショニングの考案と効果に関する研究**」
 第33回日本重症心身障害学会学術集会 (2007) .
2. 奥田憲一, 笠井恵美子, 吉開 歩, 池田美晴, 吉田大記, 草野 彩, 高橋精一郎, 甲斐 悟, 高嶋幸男:
 :「**重症心身障害児の背臥位時における下腿下垂法の考案と効果について—圧力分布システムと自律神経機能評価を指標として—**」
 第43回日本理学療法学会大会 (2008) .
3. 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也
 :「**体重免除時の自動介助運動が重症心身障害者の下肢筋活動に及ぼす影響—症例検討—**」
 第40回日本重症心身障害学会学術集会 (2014) .

	<p>4. 奥田憲一, 白川泰彦, 長原真也, 松永美幸, 中村早紀, 西村優衣, 加藤 浩 :「体重免除時の自動介助運動が重症心身障害者の下肢筋活動と関節可動域に及ぼす影響」 第50回日本理学療法学会学術大会 (2015) .</p> <p>5. 西島和秀, 奥田憲一 :「事例報告による重症心身障害児(者)の生活環境を評価するための24時間ビデオ撮影法の有効性」 第44回日本重症心身障害学会学術集会 (2018)</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>1. 福岡県作業療法協会筑後ブロック分野別研修会 (発達障害部門:シーティング~姿勢の援助方法~):講師 (平成19(2007)年7月)</p> <p>2. 全国重症心身障害児施設職員研修会 医療技術管理コース リハビリテーション分科会:講師 (平成19(2007)年11月)</p> <p>3. 福岡県小児理学療法研究会:講師 (平成19(2007)年12月)</p> <p>4. 重症心身障害のための理学療法セミナー(シンポジウム):司会 (平成20(2008)年11月)</p> <p>5. 第44回日本理学療法学会学術大会 イブニングセミナー:講師 (平成21(2009)年5月)</p> <p>6. 福岡の医療と教育を考える会「医療と教育」実践セミナー2009, -重症児・者への呼吸・摂食支援-:講師 (平成21(2009)年10月)</p> <p>7. 第1回重症心身障害理学療法研究会セミナー:パネラー, 講師 (平成21(2009)年11月)</p> <p>8. 県立特別支援学校看護職員研修会 「ポジショニングと呼吸リハビリテーション」 (平成22(2010)年8月)</p> <p>9. 「医療と教育」実践セミナー2010 地域で子ども達を支える -小児医療の新たな展開の中で- 「重症児のポジショニング指導」:講師 (平成22(2010)年12月)</p> <p>10. 第2回佐賀県東部地区リハビリテーション講習会 「運動制御モデルの変遷」:講師 (平成23(2011)年2月)</p> <p>11. 第46回日本理学療法学会学術大会 大会特別企画 小児療育編:司会 (平成23(2011)年5月)</p> <p>12. 第46回日本理学療法学会学術大会 ポスター発表「神経理学療法」:座長 (平成23(2011)年5月)</p> <p>13. 全国重症心身障害児施設職員研修会 「看護師コース」「重症心身障害児(者)の姿勢」:講師 (平成23(2011)年9月)</p> <p>14. こどもと家族とその未来のための九州連合「特別研修会」:講師 (平成24(2012)年7月)</p> <p>15. 福岡市医師会 訪問看護研修会「小児のリハビリ」:講師 (平成24(2012)年7月)</p> <p>16. こどもと家族とその未来のための九州連合:講師 (平成24(2012)年10月)</p> <p>17. 久山療育園重症児者医療療育センター公開講座 「重症児者の姿勢管理」:講師 (平成24(2012)年11月)</p> <p>18. 「医療と教育」実践セミナー 「側弯を持つ子どもへの支援の実際」:講師 (平成24(2012)年12月)</p> <p>19. 福岡療育支援センターいちばん星 職員研修会 「重症児の姿勢管理」講師 (平成25(2013)年1月)</p> <p>20. こどもと家族とその未来のための九州連合:講師 (平成25(2013)年2月)</p> <p>21. 理学療法士講習会(基本編・理論) 「重症心身障害児・者の療育~基本的概念と理学療法の展開」:講師 (平成25(2013)年7月)</p> <p>22. 重症心身障害理学療法研究会セミナー 「電動移動機器を用いて子どもたちの動きを引き出す」:司会 (平成25(2013)年9月)</p> <p>23. 認定理学療法士(発達障害)必須研修会(福岡) 「重症心身障害児と脳性麻痺」:講師 (平成25(2013)年9月)</p> <p>24. こどもと家族とその未来のための九州連合(長崎):講師 (平成25(2013)年10月)</p>

25. 特定非営利活動法人 障がい者より良い暮らしネット研修会 「青年期以降の身体に障害を持つ人達の支援現場に必要な視点とは」：講師 (平成 25(2013)年 11 月)
26. こどもと家族とその未来のための九州連合：講師 (平成 26(2014)年 2 月)
27. 重症心身障害理学療法研究会 「文献抄読を通して考える重症児・者の非対称変形」：講師 (平成 26(2014)年 6 月)
28. 理学療法講習会（基本編） 「重症心身障害児・者の療育～基本的概念と理学療法の展開」：講師 (平成 26(2014)年 7 月)
29. こどもと家族とその未来のための九州連合（鹿児島）：講師 (平成 26(2014)年 8 月)
30. 日本重症心身障害学会学術集会 シンポジウム 1 ：重症心身障害児（者）へのこれからのリハビリテーション-理学療法の立場から- ：シンポジスト (平成 26(2014)年 9 月)
31. 東京都理学療法士協会小児福祉部セミナー 「脳性麻痺を持つ子ども達への理学療法の展望 -過去・現在 そして未来へ」：講師 (平成 26(2014)年 10 月)
32. こどもと家族とその未来のための九州連合：講師 (平成 27(2015)年 1 月)
33. 理学療法講習会（基本編） 「重症心身障害児・者の療育～基本的概念と理学療法の展開」：講師 (平成 27(2015)年 7 月)
34. 宮崎県理学療法士会神経研究部会研修会「小児症例の事例検討」：講師 (平成 27(2015)年 8 月)
35. 重症心身障害看護師研修会 公開講座「重症心身障害児者の理学療法 -正常発達からみた重症児者の呼吸とこれからの理学療法」：講師 (平成 27(2015)年 8 月)
36. 小児理学療法研修会 「重症心身障害児・者の評価と理学療法への展開 ～呼吸理学療法を中心に～」：アシスタント (平成 27(2015)年 9 月)
37. 重症心身障害理学療法研究会セミナー 「オープンディスカッション」：コーディネーター， 「特別セッション」：話題提供，「第三分科会 動く」：話題提供 (平成 27(2015)年 11 月)
38. 日本神経理学療法学会学術集会 「シングルケーススタディーシンポジウム」：シンポジスト (平成 27(2015)年 11 月)
39. 第 51 回 日本理学療法学会学術大会「口述演題（神経）08」：座長 (平成 28(2016)年 5 月)
40. 宮崎県理学療法士会神経研究部会研修会「小児症例の事例検討」：講師 (平成 28(2016)年 7 月)
41. 小児理学療法研修会「重症心身障害児・者に対する評価と実践」：講師 (平成 28(2016)年 10 月)
42. 第 3 回 日本小児理学療法学会学術集会 「特別講演：Cole Galloway 氏の業績から 「動く」ことへの取組みを考える」：講師 (平成 28(2016)年 11 月)
43. 平成 28 年度 専門領域小児系研修会 「姿勢ケアのための評価～形態測定 ・Chailey 姿勢能力発達レベルを中心に～」：講師 (平成 28(2016)年 12 月)
44. 小児リハビリテーション研修会 スキルアップ講習会 「重症心身障がい児・者の療育～最新の知見と臨床への応用～」：講師 (平成 28(2016)年 12 月)
45. 平成 29 年度 福岡県教育センター キャリアアップ講座：講師 (平成 29(2017)年 8 月)
46. 日本重症心身障害福祉協会認定重症心身看護師研修会（公開講座）：講師 (平成 29(2017)年 8 月)
47. 平成 29 年度第 1 回宮崎県理学療法士会神経研究部会研修会：講師 (平成 29(2017)年 9 月)
48. 平成 30 年度福岡県教育センター キャリアアップ講座：講師 (平成 30(2018)年 8 月)

	49. 九州小児リハビリテーション研修会 (旧こどもと家族とその未来のための九州連合)：講師 (平成30(2018)年9月)
	50. 熊本小児療育研修会：講師 (平成30(2018)年9月)
	51. 第5回 日本小児理学療法学会学術大会 シンポジウム 司会 (平成30(2018)年12月)
	52. 九州小児リハビリテーション研修会：講師 (平成31(2019)年3月)
	53. 平成31年度京都府教育委員会「切れ目ない支援体制整備」 地域開放講座「第16回 姿勢保持学習会」：講師 (令和1(2019)年7月)
	54. 九州小児リハビリテーション研修会 14：講師 (令和1(2019)年8月)
	55. 第102回 福岡県理学療法士会学術研修大会 「小児理学療法の今」：講師 (令和1(2019)年8月)
	56. 平成31年度 福岡県教育センター キャリアアップ講座 肢体不自由のある子供の理解と指導：講師 (令和1(2019)年8月)
	57. 日本重症心身障害福祉協会認定 重症心身障害看護師研修会 「呼吸リハ・姿勢管理」(公開講座)：講師 (令和1(2019)年8月)
	58. 第45回 日本重症心身障害学会学術集会 リハビリテーション関連①：座長 (令和1(2019)年9月)
	59. 第6回 日本小児理学療法学会学術大会 学術大会長 (令和1(2019)年11月)
所属学会	日本理学療法士協会 日本小児神経学会 日本重症心身障害学会 日本赤ちゃん学会 日本子ども学会 重症心身障害理学療法研究会 日本ポバース研究会
受賞歴	第43回 日本理学療法学会学術大会 優秀賞 (平成21(2009)年5月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学 I ・疾患別理学療法評価学演習 ・理学療法研究法演習 I、理学療法研究法演習 II ・理学療法評価学統合演習 ・臨床理学療法手技演習 ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・トレーニング科学 ・スタートアップ教育 I、スタートアップ教育 II ・医療人のための教育学 II ・臨床動作分析学 II ・理学療法ゼミナール I、理学療法ゼミナール II、理学療法ゼミナール III ・臨床実習 I、臨床実習 II、臨床実習 III、臨床実習 IV ・園芸療法実習 <p>-----</p> <p>[九州栄養福祉大学 大学院 健康科学研究科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康科学特別講義 I、健康科学特別講義 II ・健康科学研究法特論 I、健康科学研究法特論 II ・健康運動機能特論 I、健康運動機能特論 II ・特別研究 I、特別研究 II
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 骨関節系理学療法 ■ 予防理学療法学 ■ 理学療法評価学 <p>※日本理学療法士協会認定 運動器専門理学療法士</p>
最 終 学 歴	山口大学大学院医学系研究科 医療環境統御医学領域 環境保健医学分野 修了 甲第 1291 号 (平成 20(2008)年 10 月～平成 24(2012)年 9 月)
学 位	博士 (医学 ; 山口大学) 修士 (保健医療学 ; 国際医療福祉大学) 学士 (法学 ; 北九州大学)
職 歴	<p>労働福祉事業団 九州労災病院 理学療法士 (平成 7 年 4 月～平成 16 年 3 月)</p> <p>労働者健康福祉機構 九州労災病院 理学療法士 (平成 16 年 4 月～平成 22 年 3 月)</p> <p>九州労災病院 勤労者予防医療センター 理学療法士 (平成 22 年 4 月～平成 25 年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 准教授 (平成 25 年 4 月～令和 3 年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス学生部 学生指導課指導主事・教務部教務課指導主事 (平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 准教授 (平成 31 年 4 月～令和 3 年 3 月)</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 理学療法学科長 (令和 3 年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 教授 (令和 3 年 4 月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 教授 (令和 3 年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【臨床実習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士養成校学生に対する臨床実習指導 (平成 11(1999)年～平成 21(2009)年) ・第 1 回臨床実習指導者講習会 (厚生労働省) 修了 (第 2018-1-045 号) (平成 31(2019)年 2 月) <p>-----</p> <p>【非常勤講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 非常勤講師 (理学療法評価学技術論、基礎内部障害系理学療法論、臨床内部障害系理学療法論担当) (平成 24(2012)年 4 月～平成 25(2013)年 3 月)

【研修会講師・学会座長等】

- ・労働衛生コンサルタント会 腰痛予防対策講習会講師 (平成25(2013)年～平成26(2014)年)
- ・第97回福岡県理学療法士会学術研修大会 特別講演 司会 (平成26(2014)年6月)
- ・福岡県理学療法士会 平成26年度新人研修会 講師 (平成26(2014)年9月)
- ・平成26年度北九州市民カレッジ講師 (平成26(2014)年12月)
- ・中央労働災害防止協会 腰痛予防対策講習会講師 (平成26(2014)年～平成27(2015)年1月)
- ・第24回福岡県理学療法士会学術大会 特別講演 司会 (平成27(2015)年2月)
- ・第1回日本予防理学療法学会学術集会 座長 (平成27(2015)年2月)
- ・第98回福岡県理学療法士会学術研修大会 特別講演 司会 (平成27(2015)年6月)
- ・第50回日本理学療法学会学術大会 座長 (平成27(2015)年6月)
- ・福岡県理学療法士会平成28年度産業理学療法研修会 講師 (平成28(2016)年11月)
- ・日本理学療法士協会 予防理学療法研修会(基礎編) 講師 (平成29(2017)年2月)
- ・北九州市立年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ 講師 (平成30(2018)年10月)
- ・第5回日本予防理学療法学会学術大会 大会長 (平成30(2018)年10月)
- ・第5回日本予防理学療法学会学術大会 公開講座・特別講演 座長 (平成30(2018)年10月)
- ・第6回日本運動器理学療法学会学術大会 一般演題 座長 (平成30(2018)年12月)
- ・第28回福岡県理学療法士会学会 学会長 (平成31(2019)年2月)
- ・第28回福岡県理学療法士会学会 特別講演 司会 (平成31(2019)年2月)
- ・韓国慶尚南道物理治療士会 2019日韓学術交流教育講演 講師 (平成31(2019)年4月)
- ・臨床実習指導者福岡県講習会 講師(国際医療福祉大学) (令和元(2019)年7月)
- ・臨床実習指導者福岡県講習会 講師(九州栄養福祉大学) (令和元(2019)年8月)
- ・臨床実習指導者福岡県講習会 講師(九州医療スポーツ専門学校) (令和元(2019)年10月)
- ・九州理学療法士学術大会2019(鹿児島)セミナー⑤ 講師 (令和元(2019)年10月)
- ・第6回日本予防理学療法学会学術大会 ポスターセッション 座長 (令和元(2019)年10月)

主な研究活動

【著書】

1. セラピストのためのリハビリテーション医療. 永井書店 (平成17(2005)年)
2. 勤労者医療の実際—リハビリテーション技術による健康増進と職場復帰支援—. 全国労災病院リハビリテーション技師会 (平成18(2006)年)
3. 理学療法学テキストVI 義肢装具学. 神陵文庫 (平成20年)
4. 実践MOOK 理学療法プラクティス
これだけは知っておきたい腰痛の病態とその理学療法アプローチ. 文光堂 (平成20(2008)年)
5. 腰痛の理学療法とケア. 理学療法 magazine. Vol.2, No.2 (平成27(2015)年)
6. 予防理学療法学要論. 医歯薬出版株式会社 (平成29(2017)年)
7. Non communicable disease. 理学療法ジャーナル. 第51巻3号 (平成29(2017)年)
8. 理学療法管理学. コラム「学生の基礎学力補充教育」. 医歯薬出版株式会社 (平成30(2018)年)

【学術論文】

1. 廣滋恵一, 豊永敏宏, 日吉悦子, 福田里香
「勤労者を対象とした上腕—足首脈波伝播速度に影響する体成分分析要因の検討」
(日本職業・災害医学会誌 第60巻 第5号 p.289-294, 2012)
2. Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada.
「Neuromuscular responses to acute whole body vibration in healthy young men.」
(Bulletin of Yamaguchi Medical School Vol.59, No.1-2, p.15-24, 2012.)
3. 廣滋恵一:「腰痛の予防と運動」(理学療法福岡(26):59-65, 2013)
4. Keiichi Hiroshige, MH Mahbub, Noriaki Harada.
「Effects of whole-body vibration on postural balance and proprioception in healthy young and elderly subjects: a randomized cross-over study」
(Journal of Sports Medicine and Physical Fitness. 54(2):216-24, 2014)
5. 廣滋恵一, 石橋敏郎, 室井廣大, 大丸幸
「リハビリテーション学部オープンキャンパス参加者へのアンケート調査と入学志望向上への一考察(第一報)」(九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 p.63-80, 2014)

6. 廣滋恵一, 高橋精一郎, 神崎良子, Hossain Mahbub
「全身振動刺激が自律神経系および呼吸機能に及ぼす影響について。」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 p.51-62, 2014)
7. 廣滋恵一, 四元孝道, 室井由起子
「表面筋電図を用いた咀嚼筋活動量評価と記憶力との関連性について。」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第12号 p.11-18, 2015)

【学術論文・共同研究】

1. MH Mahbub, Keiichi Hiroshige, Kazuko Tanigawa, Hirohiko Kan, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada.
「Acute effects of vibration from grasping a vibrating handle on vibrotactile perception and circulation at palmar and dorsal skin in healthy subjects.」
(Proceedings of 17th Japan Conference on Human Response to Vibration, Tokyo, Japan, pp. 53-61, 2009)
2. MH Mahbub, Hiroto Ohnari, Kazuko Tanigawa, Keiichi Hiroshige, Yukio Takahashi, Taisuke Togari, Noriaki Harada.
「Vibrotactile perception at glabrous and nonglabrous skin of fingers: repeatability of measurements and changes induced by acute vibration exposure.」
(Journal of Occupational Health Vol.53, No.1, pp.10-15, 2011)
3. 藤村宜史, 武田正則, 浅田史成, 川瀬真史, 高野賢一郎, 澤田小夜子, 廣滋恵一
「多施設共同研究による病棟勤務看護師の腰痛実態調査。」
(日本職業・災害医学会会誌 第60巻 第2号 p.91-96, 2012)
4. 井元 淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一
「勤労者の上腕一足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討。」
(日本職業・災害医学会会誌 第62巻 第2号 p.104-110, 2014)
5. 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, 廣滋恵一, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳
「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行。」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第11号 p.93-108, 2014)
6. 四元孝道, 高橋精一郎, 廣滋恵一, 長尾哲男, 奥村克博, 渡邊恭弘, 萩原隆二
「座位バランス訓練装置の開発 (第2報) ～片麻痺患者のバランス反応～」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第12号 p.87-94, 2015)
7. 四元孝道, 高橋精一郎, 廣滋恵一, 長尾哲男, 奥村克博, 渡邊恭弘, 島田泰裕
「座位バランス訓練装置の開発 (第3報) ～症例報告～」
(九州栄養福祉大学研究紀要 第13号 p.259-264, 2016)
8. Atsushi Inomoto, Rika Fukuda, Junko Deguchi, Gohei Kato, Ryoko Kanzaki, Keiichi Hiroshige, Kouichi Nakamura, Keisuke Nakano, Toshihiro Toyonaga
「The association between the body composition and lifestyle affecting pulmonary function in Japanese workers.」 (J. Phys. Ther. Sci. 28: 2883-2889, 2016)
9. 佐伯 寛 (研究代表者)、松嶋康之 (研究分担者)、廣滋恵一ほか (研究協力者)
「中高年労働者の体力増進のための予防的リハビリテーションの産業保健への応用に関する研究」 (労災疾病臨床研究事業費補助金 総合研究報告書 2018)
10. Mahbub MH, Hase Ryosuke, Yamaguchi Natsu, Takahashi Hidekazu, Kawano Yoshinao, Hiroshige Keiichi, Tanabe Tsuyoshi, Harada Noriaki
「Concomitant changes and response patterns in finger vibrotactile perception and blood flow induced by acute exposure to hand-arm vibration」 (The bulletin of the Yamaguchi Medical School 65(1-2), 11-20, 2018)
11. M. H. Mahbub, Ryosuke Hase, Natsu Yamaguchi, Keiichi Hiroshige, Noriaki Harada, A. N. M. Nurul Haque Bhuiyan, Tsuyoshi Tanabe
「Acute Effects of Whole-Body Vibration on Peripheral Blood Flow, Vibrotactile Perception and Balance in Older Adults」 (Int. J. Environ. Res. Public Health 7:17(3), 2020)

【学会発表】	
	<p>1. 廣滋恵一、大野寿子、黒田恭子、和田茜 「看護業務における腰痛発生要因の検討 トランスファー介助動作時の筋電図評価」 第 38 回日本理学療法学会 平成 15(2003)年</p>
	<p>2. 廣滋恵一、半田一登、大野寿子、和田茜、富崎珠美、川江享子 「看護師の始業前腰痛体操が柔軟性および腰痛有訴率に及ぼす影響」 日本職業・災害医学会 平成 17(2005)年</p>
	<p>3. 廣滋恵一 【臨床検査・薬剤部門・放射線・リハビリテーション共同シンポジウム】 医療従事者の安全対策 医療従事者の腰痛予防対策 日本職業・災害医学会 平成 18(2006)年</p>
【学会発表・共同研究】	
	<p>1. 丹羽義明、廣滋恵一、和田茜 「当院における生活習慣病予防の取り組み 年齢による初回参加時の運動能力の相違について。」 第 39 回日本理学療法学会 平成 16(2004)年</p>
	<p>2. 大野寿子、半田一登、廣滋恵一、和田茜、川江享子、和田厚子、今村とも子、毛利恵、山口美香、河内良重、河野一美、伊藤あゆみ、富崎珠美 「看護師の腰痛予防への取り組み その2-始業前予防体操を導入して。」 日本職業・災害医学会 平成 17(2005)年</p>
	<p>3. 村上公照、廣滋恵一、白仁田厚、鬼塚俊宏 「当院における肩腱板縫合術後のリハビリテーションの取り組み ADL 指導用パンフレットの作成と活用について。」 日本作業療法学会 平成 21(2009)年</p>
	<p>4. MH Mahbub, Ryosuke Hase, Natsu Yamaguchi, Hidekazu Takahashi, Keiichi Hiroshige, Noriaki Harada and Tsuyoshi Tanabe 「A review of exposure to whole-body vibration and associated changes in peripheral circulation.」 第 16 回日本予防医学会学術総会 平成 30(2018)年 6 月</p>
	<p>5. MH Mahbub, Ryosuke Hase, Natsu Yamaguchi, Hidekazu Takahashi, Keiichi Hiroshige, Noriaki Harada and Tsuyoshi Tanabe 「Occupational versus therapeutic exposure to whole-body vibration: a review in light of associated changes in peripheral circulation.」 第 62 回 中国四国合同産業衛生学会 平成 30(2018)年 11 月</p>
	<p>6. MH Mahbub, Keiichi Hiroshige, Ryosuke Hase, Natsu Yamaguchi, Noriaki Harada, Tsuyoshi Tanabe 「Exposure to Acute Whole Body Vibration of Three Different Frequencies: Physiological and Physical Changes in the Elderly.」 Proceedings of the 54th UK Conference on Human Responses to Vibration, Edinburgh, 24-26 September 2019 (令和元(2019)年 9 月)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成 19 年度～平成 24 年度) ・ 財団法人日本少年野球連盟所属チーム指導 (平成 24 年度～現在に至る) ・ 公益社団法人福岡県理学療法士会 理事 (平成 25 年度～現在に至る) ・ 北九州マラソン 2014 (医療・救護) ボランティア (平成 26(2014)年 2 月) ・ 公益社団法人日本理学療法士協会 代議員 (平成 26 年度～令和元年度) ・ 日本予防理学療法学会 運営幹事 (平成 26 年度～現在に至る) ・ 福岡県理学療法士会 学術誌編集委員会 委員長 (平成 27 年度～平成 30 年度) ・ 福岡県理学療法士会 査読委員会 委員長 (平成 27 年度～平成 30 年度) ・ 福岡県理学療法士会 研究助成審査会 委員長 (平成 27 年度～平成 30 年度) ・ 福岡県理学療法士会 組織検討委員会 委員 (平成 27 年度～平成 30 年度) ・ 日本理学療法士協会 組織・規則等 WG 委員 (平成 28 年度～平成 29 年度) ・ 同上 臨床実習教育の手引作成執行委員会 委員 (平成 29 年度～令和元年度) ・ 九州栄養福祉大学 卒業生³研修会 大会長 (平成 29 年度～現在に至る) ・ 日本理学療法士協会臨床実習の手引作成委員会委員長 (令和元年度～現在に至る) ・ 公益社団法人福岡県理学療法士会 副会長 (令和元年度～現在に至る)

所属学会	公益社団法人 日本理学療法士協会 日本予防理学療法学会 運営幹事 (平成26年度～現在に至る) 公益社団法人 福岡県理学療法士会 副会長 (令和元年度～現在に至る) 理学療法科学学会 日本職業・災害医学会
------	--

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・内部疾患理学療法 I ・理学療法評価学統合演習 I ・臨床理学療法手技演習 ・理学療法研究法演習 I、理学療法研究法演習 II ・理学療法卒業研究 ・トレーニング科学 ・理学療法総合演習 ・地域理学療法学演習 ・医療人のための教育学 II ・理学療法ゼミナール I、理学療法ゼミナール II、理学療法ゼミナール III ・臨床実習 I、臨床実習 II、臨床実習 III、臨床実習 IV
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内部障害系理学療法学 ■ 産業衛生学 ■ 3学会合同呼吸療法認定士 ■ 専門理学療法士 (内部障害理学療法) ■ 初級呼吸ケア指導士
最 終 学 歴	<p>広島大学医学部 保健学科理学療法学専攻 (平成 12(2000)年 4月～平成 16(2004)年 3月) 学士 (保健学)</p> <p>長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科保健学専攻 (平成 22(2010)年 4月～平成 24(2012)年 3月) 修士 (理学療法学)</p> <p>産業医科大学大学院 医学研究科産業衛生学専攻 (平成 28(2016)年 4月～平成 31(2019)年 3月) 博士 (産業衛生学)</p>
学 位	<p>博士 (産業衛生学)</p> <p>修士 (理学療法学)</p> <p>学士 (保健学)</p>
職 歴	<p>医療法人財団池友会 福岡和白病院 リハビリテーション科 (平成 16(2004)年 4月～平成 22(2010)年 4月)</p> <p>学校法人福岡保健学院 福岡和白リハビリテーション学院 専任教員 ○義肢装具学 I、義肢装具学 II、医学英語、運動学 II、理学療法技術演習 担当 (平成 22(2010)年 5月～平成 25(2013)年 3月)</p> <p>社会医療法人財団池友会 福岡和白病院 リハビリテーション科 非常勤 (平成 23(2011)年 1月～平成 23(2011)年 5月)</p> <p>独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 勤労者予防医療センター (平成 25(2013)年 4月～平成 26(2014)年 3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 ○基礎内部障害系理学療法、内部障害系運動療法、内部障害系理学療法 I、 疾患別理学療法評価学演習、地域ケア方法、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、 理学療法研究法演習、卒業論文 担当 (平成 26(2014)年 4月～平成 29(2017)年 3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 ○内部障害系理学療法 I、疾患別理学療法評価学演習、臨床理学療法手技演習、 地域理学療法学演習、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、理学療法総合演習、理学療法 研究法演習 I、理学療法研究法演習 II、理学療法卒業研究、トレーニング科学 担当 (平成 29(2017)年 4月～令和 2(2020)年 3月)</p>

	<p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授</p> <p>○内部障害系理学療法 I、疾患別理学療法評価学演習、臨床理学療法手技演習、地域理学療法学演習、医療人のための教育学Ⅱ、理学療法基礎演習、理学療法専門演習、理学療法総合演習、理学療法研究法演習 I、理学療法研究法演習Ⅱ、理学療法卒業研究、トレーニング科学 担当 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○福岡和白リハビリテーション学院における専任教員 (平成 22(2010)年～平成 25(2013)年)</p> <p>○小倉南看護専門学校における非常勤講師 (平成 30(2018)年～現在に至る)</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Kanji Matsukawa, Tomoko Nakamoto, <u>Atsushi Inomoto</u> : 「Gadolinium does not blunt the cardiovascular responses at the onset of voluntary static exercise in cats: a predominant role of central command.」 Am J Physiol Heart Circ Physiol 292: 121-129, 2007 2. 井元淳, 井ノ口尚美, 山口優実, 川端悠士 : 「肺炎患者の入院期間に影響を与える要因の検討.」 理学療法福岡 22 : 82-85, 2009 3. 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 川端悠士 : 「肺炎患者の自宅復帰に影響を与える要因の検討.」 総合リハビリテーション 38(11) : 1071-1075, 2010 4. 井元淳, 甲斐尚仁, 真名子さおり, 片山亜有, 新貝和也, 千住秀明 : 「誤嚥性肺炎患者と非誤嚥性肺炎患者の唾液分泌量と日内リズムの相違—唾液湿潤度での検討—.」 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 22(3) : 385-390, 2012 5. 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一 : 「勤労者の上腕—足首脈波伝播速度に影響を与える要因の検討.」 日本職業・災害医学会会誌 62(2) : 104-110, 2014 6. 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香 : 「男性勤労者の内臓脂肪面積に関連する要因の検討—内臓脂肪測定装置 DUALSCAN での検討—.」 日本職業・災害医学会会誌 62(3) : 197-201, 2014 7. 井元淳, 福田里香, 出口純子, 豊永敏宏 : 「勤労者の身体活動・食行動の変化と内臓脂肪面積との関係.」 日本職業・災害医学会会誌 62(4) : 197-201, 2014 8. 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏 : 「勤労男性における上腕—足首脈波伝播速度と食習慣との関連性.」 日本職業・災害医学会会誌 62(5) : 336-342, 2014 9. 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香 : 「男性勤労者におけるサルコペニア予備群と身体特性, ライフスタイルとの関係.」 日本職業・災害医学会会誌 62(6) : 376-381, 2014 10. 吉田遊子, 千代丸信一, 石橋敏郎, 廣滋恵一, 中藤佳絵, 神崎良子, 井元淳 : 「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行.」 九州栄養福祉大学研究紀要 11 : 93-108, 2014 11. 井元淳, 神崎良子, 松田隆治, 深町晃次, 薦田尚子, 室井廣大, 大丸幸 : 「リハビリテーション学部学生における防犯意識と危険ドラッグに対する意識.」 九州栄養福祉大学研究紀要 12 : 27-38, 2015 12. 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 高橋精一郎, 橋元隆 : 「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因.」 九州栄養福祉大学研究紀要 12 : 39-44, 2015

- | |
|---|
| <p>13. 中村浩一, 兒玉隆之, 平野幸伸, 鈴木重行, 井元淳, 梅野和也, 岡本伸弘
 : 「腓腹筋に対するセルフストレッチング効果の超音波学的解析。」
 理学療法科学 31(2) : 261-264, 2016</p> |
| <p>14. 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏
 : 「勤労男性における内臓脂肪肥満群の生活習慣の特徴。」
 日本職業・災害医学会誌 64(5) : 271-278, 2016</p> |
| <p>15. <u>Atsushi Inomoto</u>, Rika Fukuda, Junko Deguchi, Gohei Kato, Ryoko Kanzaki, Keiichi Hiroshige, Keisuke Nakano, Toshihiro Toyonaga
 : 「The association between the body composition and lifestyle affecting pulmonary function in Japanese workers. 」
 Journal of Physical Therapy Science 28(10): 2883-2889, 2016</p> |
| <p>16. 中藤佳絵, 井元淳, 木村美子
 : 「物理療法科目における現状と課題」
 九州栄養福祉大学研究紀要 13 : 171-180, 2016</p> |
| <p>17. 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 梅野和也, 大峯三郎
 : 「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因の変化。」
 九州栄養福祉大学研究紀要 13 : 215-221, 2016</p> |
| <p>18. 梅野和也, 太田研吾, 井元淳, 中村浩一
 : 「自己調整学習方略および学習目標が定期試験の結果に与える影響—理学療法学科学生を対象とした研究—。」
 理学療法科学 32(1) : 69-72, 2017</p> |
| <p>19. <u>Atsushi Inomoto</u>, Rika Fukuda, Junko Deguchi, Toshihiro Toyonaga
 : 「Relation between respiratory function and arterial stiffness assessed by brachial-ankle pulse wave velocity in healthy workers. 」
 Journal of Physical Therapy Science 29(9): 1664-1669, 2017</p> |
| <p>20. 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏
 : 「勤労男性における内臓脂肪肥満群の内臓脂肪改善についての指導法の検証,」
 日本職業・災害医学会誌 65(6) : 343-349, 2017</p> |
| <p>21. 井元淳, 石橋敏郎, 中藤佳絵, 梅野和也, 大峯三郎
 : 「解剖・生理・運動学の3領域が理学療法士国家試験に与える影響。」
 九州栄養福祉大学研究紀要 14 : 119-124, 2017</p> |
| <p>22. 梅野和也, 井元淳
 : 「ニューロフィードバックを併用したメンタルプラクティスの試み—簡易脳波計を使用して—。」
 九州栄養福祉大学研究紀要 14 : 125-130, 2017</p> |
| <p>23. 梅野和也, 中村浩一, 井元淳, 白澤浩太郎, 石田猛流, 加来謙治, 土井康太
 : 「運動イメージ想起能力とメンタルプラクティスの効果との関係—属性の異なる運動イメージ評価法を用いた研究—。」
 理学療法科学 33(2) : 313-317, 2018</p> |
| <p>24. 吉田大輔, 井元淳, 梅野和也, 廣滋恵一
 : 「客観的臨床能力試験後に実施したビデオ・フィードバックの効果。」
 九州栄養福祉大学研究紀要 15 : 37-42, 2018</p> |
| <p>25. 梅野和也, 中村浩一, 井元淳, 宮田浩紀
 : 「簡易脳波計を使用したニューロフィードバックトレーニングの効果の検討—メンタルプラクティスへの応用—。」
 理学療法科学 33(6) : 901-904, 2018</p> |
| <p>26. 神崎良子, 井元淳, 木村多寿子, 嶋田誠治, 佐藤祥代, 臈居祐輔, 曾我芳光, 安藤猷児, 樋口博之
 : 「末梢動脈疾患患者に対する血管内治療後の在宅運動療法の効果。」
 心臓リハビリテーション 24(3・4) : 226-231, 2018</p> |

27. Atsushi Inomoto, Hiroshi Yamato, Ryoma Michishita, Ying Jiang, Shingo Nishiyama, Rika Fukuda, Junko Deguchi
: 「Frequency of exposure to secondhand smoke outside the home is associated with a lower FEV1/FVC in male workers regardless of smoking status.」
Journal of UOEH 41(1): 15-24, 2019
28. 福田里香、出口純子、井元淳、豊永敏宏、岩本幸英
: 「保健指導を受けた単身世帯の勤労男性における生活習慣と身体組成の経年的な変化について.」
日本栄養士会雑誌 62(7) : 25-32, 2019
29. 廣滋恵一、四元孝道、井元淳、早川智之
: 「本学リハビリテーション学部学生の社会人基礎力調査について
～卒業時の社会人基礎力自己評価と GPA・臨床実習成績との関連～」
九州栄養福祉大学研究紀要 16 : 7-16, 2019
30. 井元淳、中藤佳絵、梅野和也、烏山昌起、早川智之、石橋敏郎、大峯三郎
: 「理学療法士模擬試験成績を活用した学修指導の効果の評価」
九州栄養福祉大学研究紀要 16 : 37-42, 2019
31. 河上淳一、烏山昌起、井元淳、石橋敏郎、四元孝道、佐野幹剛、室井廣大、高橋精一郎
: 「整形外科学に対する学修支援の取り組み」
九州栄養福祉大学研究紀要 16 : 43-50, 2019
32. 四元孝道、湊雅子、井元淳、廣滋恵一
: 「地域高齢者の認知機能検査と身体機能検査との関連性における予備的研究」
九州栄養福祉大学研究紀要 16 : 83-90, 2019
33. 福田里香、出口純子、井元淳、豊永敏宏、岩本幸英
: 「単身世帯の勤労男性における食習慣改善についての実践の効果」
栄養学雑誌 77(6) : 167-175, 2019
34. 井元淳、出口純子、福田里香、四元孝道、豊永敏宏
: 「男性勤労者における家庭外での受動喫煙の暴露が呼吸機能の変化に与える影響」
日本職業・災害医学会会誌 68(1) : 39-45, 2020
35. 福田里香、出口純子、井元淳、豊永敏宏、岩本幸英
: 「男性勤労世代において頸部周囲長(頸囲)が腹囲に替わる肥満指標になり得るか」
日本職業・災害医学会会誌 68(4) : 227-232, 2020
36. Atsushi Inomoto, Junko Deguchi, Rika Fukuda, Ryoma Michishita, Ying Jiang, Shingo Nishiyama, Hiroshi Yamato
: 「Cohabiting with Smokers Is an Independent Factor for Worsening Arterial Stiffness Even in Smoking Workers.」
Journal of UOEH 42(3): 251-259, 2020
37. 相野正樹、春口幸太郎、相野真由美、福良剛志、中埜康治郎、橋村瞬、井元淳、横瀬哲朗
: 「筋に対する圧迫刺激量の違いが筋硬度と筋出力に及ぼす影響」
理学療法科学 35(6) : 831-835, 2020
38. Atsushi Inomoto, Junko Deguchi, Rika Fukuda, Takamichi Yotsumoto, Toshihiro Toyonaga
: 「Age-specific determinants of brachial-ankle pulse wave velocity among male Japanese workers.」
The Tohoku Journal of Experimental Medicine 253(2): 135-141, 2021

【学会発表・その他】

1. 松川寛二、井元淳、中本智子、村田潤
: 「静的運動時に見られる心循環調節応答に及ぼすガドリニウムの効果」
Jpn J Physiol 55 Suppl : 92, 2005
2. 井元淳
: 「右肺癌術後に無気肺を合併し、術直後の呼吸理学療法が有用であった 1 症例」
理学療法福岡 21 Suppl : 10, 2008

3. 高宮尚美, 井元淳, 沖田一彦
 : 「自己意識性の視点からみた半側空間無視の病態解釈の試み—一例の観察およびインタビュー内容の分析に基づいて—」
 理学療法学 37 Suppl : 1379, 2010
4. 高宮尚美, 井元淳, 門脇敬, 沖田一彦
 : 「半側空間無視に対する新しい病態解釈の試み」
 日本認知神経リハビリテーション学会学術集会抄録集 11 回 : 84, 2010
5. 中野吉英, 井元淳, 高宮尚美, 甲斐尚仁
 : 「腰部脊管狭窄症に対し腰椎後方椎体間固定術施行後、股関節痛が出現した症例の検討。」
 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 102, 2010
6. 井元淳, 高宮尚美, 中野吉英, 甲斐尚仁, 仲村匡平, 野方拓
 : 「肺炎患者が在宅復帰するために。」
 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 158, 2010
7. 甲斐尚仁, 井元淳, 中野吉英, 高宮尚美
 : 「後方進入による人工股関節置換術(THA)後に前方脱臼した症例に対する ADL 指導姿勢と動作に着目して。」
 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 207, 2010
8. 高宮尚美, 井元淳, 中野吉英, 甲斐尚仁, 沖田一彦
 : 「半側空間無視患者の障害に対する自己意識性 ADL の自己評価による検討。」
 第 32 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2010 : 227, 2010
9. 春口幸太郎, 高宮尚美, 井元淳
 : 「変形性股関節症に対するホームエクササイズの効果。」
 理学療法福岡 24 suppl : 19, 2011
10. 日下部修, 野方拓, 仲村匡平, 井元淳
 : 「本学年 1 年生の「学習」に関する意識調査~本学独自のアンケートを通して~。」
 第 33 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2011 : 25, 2011
11. 岩本悠子, 中野俊哉, 兒玉隆之, 中村匡平, 井元淳
 : 「砂地歩行における体幹および下肢の動きの特徴。」
 日本人間工学会大会講演集 48 : 484-485, 2012
12. 福田里香, 早瀬仁美, 出口純子, 井元淳, 廣滋恵一, 豊永敏宏
 : 「勤労男性における上腕一足首脈波伝播速度と食品群および栄養素摂取量との関連性。」
 第 61 回日本職業・災害医学会 : 別 98, 2013
13. 春口幸太郎, 井元淳, 中村浩一, 甲斐尚仁, 林和生, 大谷内輝夫
 : 「変形性股関節症に対するホームエクササイズの効果。」
 第 49 回日本理学療法学会学術大会 : 375, 2014
14. 井元淳, 豊永敏宏, 出口純子, 福田里香, 廣滋恵一
 : 「個別指導に有効な勤労者健康度データベースの構築。」2014 (調査・研究報告書)
15. 谷岡亮平, 穴井翼, 藤本卓, 広渡静夫, 井元淳
 : 「当院の気管支喘息・COPD 有病者の現状
 ~家庭用ネブライザー・服薬管理を行った一例~。」
 第 6 回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 : 158, 2015
16. 福島広, 井元淳, 河手武
 : 「動作指導により呼吸苦改善し自宅退院した呼吸不全患者への作業療法。」
 第 25 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 : 169s, 2015
17. 中野圭介, 井元淳, 小山卓
 : 「深部静脈血栓症により歩行時痛を呈した一症例。」
 第 37 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2015 : 230, 2015
18. 福田里香, 出口純子, 加藤剛平, 井元淳, 豊永敏宏
 : 「勤労男性における内臓脂肪肥満群の生活習慣の特徴。」
 第 63 回日本職業・災害医学会学術大会 : 別 142, 2015

- | |
|---|
| 19. 相野正樹, 春口幸太郎, 白樫敦, 井元淳
: 「 神経随節を考慮した SSP 療法の即時効果～身体機能に着目して～. 」
第 51 回日本理学療法学会大会 43, 2016 |
| 20. 春口幸太郎, 井元淳, 林和生, 大谷内輝夫
: 「 変形性股関節症に対するホームエクササイズの継続率に対する一考察～ゆうきプログラムに着目して～. 」
第 51 回日本理学療法学会大会 43, 2016 |
| 21. 谷岡亮平, 穴井翼, 春口幸太郎, 井元淳
: 「 退院早期より訪問リハビリを開始し、呼吸機能が向上した一例. 」
第 8 回日本訪問リハビリテーション協会学会大会 in 東京, 2016 |
| 22. 山本紘子, 辻千里, 小河一彦, 井元淳, 羅本尚樹
: 「 追跡調査からみる回復期病棟退院後の FIM の変化と転倒の傾向について. 」
リハビリテーション・ケア合同研究大会 茨城 2016 : 246, 2016 |
| 23. 谷岡亮平, 井元淳
: 「 活動・参加が可能となった症例を通して～今後の課題について～. 」
リハビリテーション・ケア合同研究大会 茨城 2016 : 306, 2016 |
| 24. 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏
: 「 勤労男性における内臓脂肪肥満群の内臓脂肪改善についての指導法の検証. 」
第 64 回日本職業・災害医学会学会大会 : 別 186, 2016 |
| 25. 川上慧, 河手武, 井元淳
: 「 呼吸・動作指導により呼吸苦改善した肺癌術後 COPD 患者への理学療法. 」
第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学会集會 : 230s, 2017 |
| 26. 村上武史, 財前愛美, 矢野雄大, 花田菜摘, 石倉龍太, 井元淳, 姜英, 道下竜馬, 大和浩, 佐伯覚
: 「 看護師における多面的運動介入における腰痛減少効果の検討. 」
第 65 回日本職業・災害医学会学会大会 : 別 229, 2017 |
| 27. 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏, 岩本幸英
: 「 単身世帯の勤労男性における身体特性と生活習慣の特徴. 」
第 65 回日本職業・災害医学会学会大会 : 別 240, 2017 |
| 28. 天米穂, 松本大夢, 萩原勇太, 井元淳
: 「 健常人におけるバルサルバ効果が瞬間最大筋力に及ぼす影響～筋力との関連性とリスク管理～. 」
第 5 回日本予防理学療法学会 : 49, 2018 |
| 29. 井元淳, 大和浩, 道下竜馬, 姜英, 西山信吾, 福田里香, 出口純子
: 「 勤労者における喫煙状況による身体組成や生活習慣の相違と呼吸機能に影響を与える要因. 」
第 5 回日本予防理学療法学会 : 52, 2018 |
| 30. 吉田惇一, 江口聖也, 黒木航大, 井元淳
: 「 地域在住高齢者を対象としたフレイルと栄養状態の関係の検討. 」
第 5 回日本予防理学療法学会 : 64, 2018 |
| 31. 福田里香, 出口純子, 井元淳, 豊永敏宏, 岩本幸英
: 「 単身世帯の勤労男性における食習慣改善についての実践の効果. 」
第 66 回日本職業・災害医学会学会大会 : 別 152, 2018 |
| 32. 出口純子, 福田里香, 井元淳, 豊永敏宏, 岩本幸英
: 「 プレ更年期 (35～44 歳) および更年期の勤労女性における動脈硬化に関する身体組成と生活習慣の特徴. 」
第 66 回日本職業・災害医学会学会大会 : 別 156, 2018 |
| 33. Yotsumoto T, Hiroshige K, Inomoto A, Fuchi M, Takahashi S
: 「 Toward the development of a sitting position training system. 」
Life Engineering Symposium 2019 : 2019 |

	<p>34. 四元孝道、湊雅子、井元淳、廣滋恵一、出口純子、福田里香 :「地域高齢者の認知機能検査と身体機能検査との関連性における予備的研究。」 第53回日本作業療法学会 : 2019</p>
	<p>35. 四元孝道、井元淳、湊雅子 :「勤労者の年代別における注意検査と身体機能検査。」 第43回日本高次脳機能障害学会学術総会 : 2019</p>
	<p>36. 松尾聡、岡元昌樹、池内智之、森駿一朗、川口淳、井元淳、津田徹 :「特発性間質性肺炎に対する包括的呼吸リハビリテーション早期介入は治療効果良好因子である。」 第60回日本呼吸器学会学術講演会 : 2020</p>
	<p>37. 森駿一朗、岡元昌樹、池内智之、松尾聡、井元淳、津田徹 :「IPF と COPD における呼吸リハビリテーションの効果 —傾向スコアマッチングを用いた検討—。」 第30回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会 : 2021</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会福岡1地区運営委員 (平成20(2008)年4月～平成23(2011)年3月) ・日本理学療法学会大会査読者 (平成24(2012)年5月～現在に至る) ・福岡県理学療法士会福岡1地区研修会講師 (平成25(2013)年10月) ・九州理学療法士・作業療法士合同学会査読者 (平成26(2014)年11月～平成30(2018)年11月) ・福岡県理学療法士会北九州支部研修会講師 (平成27(2015)年2月) ・福岡県理学療法士学会ポスター発表座長 (平成27(2015)年2月) ・「理学療法福岡」査読委員 (平成27(2015)年6月～現在に至る) ・九州栄養福祉大学市民公開講座講師 (平成27(2015)年11月) ・九州理学療法士・作業療法士合同学会ポスター発表座長 (平成27(2015)年11月) ・第22回呼吸療法セミナー講師 (平成28(2016)年12月) ・福岡県理学療法士学会口述発表座長 (平成31(2019)年2月) ・全国リハビリテーション学校協会学術委員会委員 (令和元(2019)年7月～現在に至る) ・第2回臨床実習指導者福岡県講習会講師 (令和元(2019)年8月) ・第4回臨床実習指導者福岡県講習会講師 (令和元(2019)年10月)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士協会協会員 (平成16(2004)年～現在に至る) 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 (平成22(2010)年～現在に至る) 日本PNF学会 (平成19(2007)年～平成28(2016)年) 日本職業・災害医学会 (平成25(2013)年～現在に至る) 産業理学療法研究会 (平成25(2013)年～現在に至る) 理学療法科学学会 (平成28(2016)年～現在に至る) 日本産業衛生学会 (平成29(2017)年～現在に至る) 日本リハビリテーション栄養学会 (平成29(2017)年～現在に至る) 日本集中治療医学会 (平成31/令和元(2019)年～現在に至る)
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> 第1回日本職業・災害医学会 奨励賞 (筆頭) (平成26(2014)年11月) 第3回日本職業・災害医学会 奨励賞 (共同) (平成28(2016)年11月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・スタートアップ教育Ⅰ、スタートアップ教育Ⅱ ・動作分析演習Ⅰ ・日常生活活動演習 ・物理療法Ⅰ、物理療法Ⅱ ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・地域理学療法演習 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	■ 日常生活活動・物理療法
最 終 学 歴	九州リハビリテーション大学校 (平成5年度卒業) 放送大学大学院 文化科学研究科文化科学専攻 生活健康科学プログラム (平成29年度卒業)
学 位	修士 (学術)
職 歴	宗像水光会総合病院リハビリテーション部 (平成6(1994)年4月～平成10(1998)年4月) 独立行政法人国立病院機構東佐賀病院リハビリテーション科 (平成11(1999)年6月～平成15(2003)年3月) 独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター附属リハビリテーション学院 理学療法学科 (平成15年4月～平成17年3月) 専門学校九州リハビリテーション大学校理学療法学科 (平成18(2006)年4月～平成23(2011)年3月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 (平成23(2011)年4月～令和3(2021)年3月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 (令和3(2021)年4月～現在に至る)
教育上の業績	○理学療法士養成校の学生に対する臨床実習指導 (平成9(1997)年～平成15(2003)年) ○福岡東医療センター附属リハビリテーション学院における専任教員 (平成15(2003)年～平成17(2005)年)
	【講義に使用する教科書の執筆】
	○『日常生活活動 (ADL)』(第2版) (平成19(2007)年4月, 神陵文庫) ○『義肢装具学』(第2版) (平成27(2015)年3月, 神陵文庫)
	【執筆】(分担)
	○産前・産後の腰痛ケア 理学療法 magazine. Vol.2, No.2 pp57-62 (平成27(2015)年, 医学出版)
主な研究活動	【研究論文】
	1. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆 :「北九州市における尿失禁予防教室 第1報 一教室開催の背景とその概要一」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第8号, 平成23(2011)年12月)
	2. 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵 :「北九州市における尿失禁予防教室 第2報 一教室開催の背景とその概要一」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第8号, 平成23(2011)年12月)
	3. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆 :「骨盤底筋の筋機能評価の試行」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号, 平成25(2013)年12月)

4.	堤文生、石橋敏郎、神崎良子、 <u>中藤佳絵</u> 、吉田遊子、坂本親宣、大峯三郎、橋元 隆、大島弘三 ：「臨床実習評価項目と実習成績との関連」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号, 平成25(2013)年12月)
5.	<u>中藤佳絵</u> 、神崎良子、吉田遊子、橋元 隆 ：「蓄尿障害が生活の質に与える影響について～ICIQ-SFを用いて～」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26(2014)年12月)
6.	吉田遊子、千代丸信一、石橋敏郎、廣滋恵一、 <u>中藤佳絵</u> 、神崎良子、井元 淳 ：「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26(2014)年12月)
7.	井元 淳、石橋敏郎、 <u>中藤佳絵</u> 、高橋精一郎、橋元 隆 ：「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12, 平成27(2015)年12月)
8.	<u>中藤佳絵</u> 、神崎良子、吉田遊子、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗 ：「女性尿失禁患者に対する理学療法士らによる下部尿路リハビリテーションの介入効果 ～QOL評価～」 (日本女性骨盤底医学会誌、vol13 No.1 平成28(2016)年)
9.	吉田遊子、 <u>中藤佳絵</u> 、橋元 隆、西井久枝、藤本直浩 ：「理学療法士による女性腹圧性尿失禁患者に対する筋電図検査を利用した個別骨盤底筋指導 の初期経験」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第13号, 平成28(2016)年12月)
10.	<u>中藤佳絵</u> 、井元 淳、木村美子 ：「物理療法科目における現状と課題」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第13号, 平成28(2016)年12月)
11.	井元 淳、石橋敏郎、 <u>中藤佳絵</u> 、梅野和也、大峯三郎 ：「理学療法士国家試験の点数に影響を及ぼす要因の変化」 (九州栄養福祉大学研究紀要 13号, 平成28(2016)年12月)
12.	<u>中藤佳絵</u> 、伊藤圭一、岩本直輝、志田啓太郎 ：「生活期の脳卒中後在宅生活者の心身機能および環境因子が日常生活活動に与える影響」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第14号, 平成29(2017)年12月)
13.	井元 淳、石橋敏郎、 <u>中藤佳絵</u> 、梅野和也、大峯三郎 ：「解剖・生理・運動学の3領域が理学療法士国家試験に与える影響」 (九州栄養福祉大学研究紀要 14号, 平成29(2017)年12月)
14.	<u>中藤佳絵</u> 、神崎良子、吉田遊子、橋元 隆、久保かおり、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗、田城孝雄 ：「妊娠・出産の経験が排尿機能に及ぼす影響」 (放送大学大学院 文化科学研究科文化科学専攻 修士論文 平成29(2017)年1月)
15.	<u>中藤佳絵</u> 、木村美子、高橋精一郎 ：「深達温熱刺激が生体の自律神経に与える影響」 (九州栄養福祉大学研究紀要 15号, 平成30(2018)年12月)
16.	<u>中藤佳絵</u> 、高橋精一郎、橋元 隆、宮永敬一 ：「要支援高齢者向け介護予防教室における複合的プログラムの効果 ～介護予防・日常生活支援総合事業として～」 (九州栄養福祉大学研究紀要 16号, 令和元(2019)年12月)
17.	井元 淳、 <u>中藤佳絵</u> 、梅野和也、烏山昌起、早川智之、石橋敏郎、大峯三郎 ：「理学療法士模擬試験成績を活用した学習指導効果の評価」 (九州栄養福祉大学研究紀要 16号, 令和元(2019)年12月)
18.	吉田遊子、 <u>中藤佳絵</u> 、神崎良子、橋元 隆 ：「尿漏れ予防体験会参加者の講座内容理解度と尿漏れ予防対策継続実施状況の検討」 (九州栄養福祉大学研究紀要 16号, 令和元(2019)年12月)

【研究発表】

1. 田中正則、二宮省悟、亀井隆弘、山元竜二、中藤佳絵、竹下明伸、木村徳久
 :「問題解決型学習終了後に OSCE を用いた臨床実習開始前の学生評価について」
 (第 40 回 日本理学療法学会学術大会)
2. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆、田舎中真由美、天野賢治、西井久枝
 :「女性高齢者尿失禁予防教室への理学療法士としての取り組み」
 (第 21 回 日本老年泌尿器科学会 (北九州国際会議場福岡) 日本老年泌尿器科学会誌 Vol.21 2008)
3. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆、天野賢治、田舎中真由美、西井久枝
 :「北九州市における尿失禁予防教室<第 1 報>~教室開催の背景とその概要」
 (第 44 回 日本理学療法学会学術大会 (東京国際フォーラム) 理学療法学 Vol.36 Supplement No.2)
4. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆、天野賢治、田舎中真由美、西井久枝
 :「北九州市における尿失禁予防教室<第 2 報>~骨盤底筋体操と生活指導を中心に」
 (第 44 回 日本理学療法学会学術大会 (東京国際フォーラム) 理学療法学 Vol.36 Supplement No.2)
5. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆、田舎中真由美、天野賢治、西井久枝
 :「北九州市における尿失禁予防教室<第 3 報>~教室の効果と今後の課題」
 (第 7 回東アジアヘルスプロモーション会議 (北九州国際会議場))
6. 吉田遊子、神崎良子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗
 :「北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり~理学療法士の立場から~」
 (第 28 回 日本老年泌尿器科学会, 平成 27(2015)年 5 月) 学会長賞受賞
7. 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗
 :「北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について」
 (第 28 回 日本老年泌尿器科学会, 平成 27 年 5 月)
8. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆、久保かおり、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗
 :「北九州市における理学療法士による「尿もれ予防体験会」の課題
 - 体験会実施後報告書より -」
 (第 30 回 日本老年泌尿器科学会, 平成 29(2017)年 6 月)
10. 中藤佳絵、神崎良子、吉田遊子、橋元 隆、久保かおり、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗、田城孝雄
 :「妊娠・出産の経験が排尿機能に及ぼす影響」
 (第 19 回 日本女性骨盤底医学会, 平成 29(2017)年 7 月)
11. 中藤佳絵、高橋精一郎、橋元 隆、宮永敬一
 :「要支援高齢者向け介護予防教室における複合的プログラムの効果」
 (第 5 回 日本予防理学療法学会, 平成 30(2018)年 10 月)

主な社会活動

- ・北九州市立年長者研修大学校講義 (体力測定)
- ・北九州市による女性尿失禁予防事業
- ・北九州市による尿失禁予防体験会
- ・北九州市による女性高齢者尿失禁予防事業 平成 19(2007)・20(2008)・25(2013)年度実務者講習

所属学会

日本理学療法士協会
 日本女性骨盤底医学会

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・スタートアップ教育Ⅰ・Ⅱ ・医療人のための教育学Ⅱ（後期） ・理学療法評価学Ⅰ、理学療法評価学Ⅱ ・生活環境支援論 ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・地域理学療法学演習 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理学療法評価学 ■ 生活環境支援理学療法学
最 終 学 歴	放送大学大学院 文化科学研究科文化科学専攻生活健康科学プログラム（平成30年3月卒業）
学 位	修士（学術）
職 歴	<p>医療法人社団宗像水光会総合病院リハビリテーション部 理学療法士 （平成7(1995)年4月～平成17(2005)年3月）</p> <p>○専門学校 九州リハビリテーション大学校 理学療法学科 助手 （平成17(2005)年4月～平成23(2011)年3月）</p> <p>同科 講師 （平成23(2011)年4月～平成24(2012)年3月）</p> <p>○九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 （平成24(2012)年4月～令和3(2021)年3月）</p> <p>○九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 （令和3(2021)年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<p>【作成した教材】</p> <p>○理学療法学科臨床実習前における客観的臨床能力試験（OSCE）の開発</p> <p>【著書】（いずれも分担執筆）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○『生活環境論』（第1版）（平成18(2006)年4月,神陵文庫） ○『理学療法学事典』（第1版）（平成18(2006)年4月,医学書院） ○『日常生活活動（ADL）』（第2版）（平成19(2007)年4月,神陵文庫） ○『実践MOOK・理学療法プラクティス 関節可動域制限』（第1版） （平成21(2009)年10月,文光堂） ○『義肢装具学』（第2版）（平成27(2015)年3月,神陵文庫） ○『標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学』（第5版） （平成29(2017)年9月,医学書院） ○『リハスタッフのための排泄リハビリテーション実践アプローチ』 （平成30(2018)年2月,メジカルビュー社）
主な研究活動	<p>【研究論文】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆 ：「北九州市における尿失禁予防教室 第1報 一教室開催の背景とその概要一」 （九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23(2011)年12月22日） 2. 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵 ：「北九州市における尿失禁予防教室 第2報 一教室開催の背景とその概要一」 （九州栄養福祉大学研究紀要 第8号,平成23(2011)年12月22日） 3. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆 ：「骨盤底筋の筋機能評価の試行」 （九州栄養福祉大学研究紀要 第10号,平成25(2013)年12月22日）

	<p>4. 堤文生、石橋敏郎、神崎良子、中藤佳絵、吉田遊子、坂本親宣、大峯三郎、橋元 隆、大島弘三 :「臨床実習評価項目と実習成績との関連」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第10号, 平成25(2013)年12月22日)</p> <p>5. 吉田遊子、千代丸信一、石橋敏郎、廣滋恵一、中藤佳絵、神崎良子、井元 淳 :「本学理学療法学科における客観的臨床能力試験 (OSCE) の試行」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26(2014)年12月)</p> <p>6. 中藤佳絵、吉田遊子、神崎良子、橋元 隆 :「蓄尿障害が生活の質に与える影響について」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第11号, 平成26(2014)年12月)</p> <p>7. 吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、西井久枝、藤本直浩 :「理学療法士による女性腹圧性尿失禁患者に対する筋電図検査を利用した個別骨盤底筋指導の初期経験」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第13号, 平成28(2016)年12月22日)</p> <p>8. 西井久枝、吉田正貴、吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆、上田真由美、山下博志、松本哲朗、藤本直浩 :「健康長寿を目指した高齢者排尿管理における多職種連携」 (西日本泌尿器科第80巻第5号 平成30(2018)年5月)</p> <p>9. 田城翼、浦辺幸夫、内山康明、山下大地、吉田遊子 :「大殿筋および股関節外旋筋群への静的ストレッチはしゃがみこみ動作に影響を及ぼすか」 (理学療法科学 第33巻6号 平成30(2018)年6月)</p> <p>10. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子 :「尿漏れ予防体験会」参加者の講座内容理解度と尿漏れ予防対策継続実施状況の検討 ～介護予防事業における理学療法士の関わりから～ (九州栄養福祉大学研究紀要 第16号, 令和元(2019)年12月22日)</p> <p>11. 早川智之、河上淳一、吉田遊子、奥田憲一、大峯三郎 :「理学療法学科の学内実習における学生満足度調査」 (九州栄養福祉大学研究紀要 第17号 令和2(2020)年12月)</p>
	<p>【学会発表】</p>
	<p>1. 吉田遊子、神崎良子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗 :北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり～理学療法士の立場から～ (第28回 日本老年泌尿器科学会, 平成27(2015)年5月) 学会長賞受賞</p> <p>2. 神崎良子、吉田遊子、中藤佳絵、橋元 隆、久保かおり、佐野志郎、西井久枝、松本哲朗 :北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について (第28回 日本老年泌尿器科学会, 平成27(2015)年5月)</p> <p>3. 吉田遊子、中藤佳絵、神崎良子、橋元 隆、久保かおり、西井久枝、藤本直浩、松本哲朗 :北九州市における理学療法士による「尿もれ予防体験会」の課題 ～体験会実施後報告書より～ (第30回 日本老年泌尿器科学会, 平成29(2017)年6月)</p> <p>4. 吉田遊子、戸ヶ里泰輔、横山由香里 :女子大学生の健康知識とヘルスリテラシーが生活習慣に及ぼす影響 (第27回 日本健康教育学会学術大会, 平成30(2018)年7月)</p>
	<p>【翻訳・その他】</p>
	<p>『エビデンスに基づく骨盤底の理学療法 科学と臨床をつなぐ 原著第2版』 (平成29(2017)年10月,医歯薬出版)</p> <p>「女性尿失禁患者に対する理学療法の介入効果 ～骨盤底筋と体幹筋の筋力が尿失禁症状に及ぼす影響～」 (平成27(2015)年8月～平成29(2017)年3月, 産業医科大学病院泌尿器科外来)</p> <p>第6回日本運動器理学療法学会学術大会におけるシンポジスト テーマ「ウィメンズヘルス理学療法の革新」(平成30(2018)年12月16日,福岡国際会議場)</p>

	<p>第 29 回福岡県理学療法士会学会におけるシンポジウム座長 テーマ「理学療法士の職域拡大に挑戦しよう！」(令和 2(2020)年 2 月 2 日, 福岡国際会議場)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宗像市・福岡町介護認定審査会委員 (平成 13(2001)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月) ・ 北九州市介護認定審査会委員 (平成 18(2006)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月) ・ 高齢者体力測定 (平成 17 年(2005)～現在に至る) ・ 北九州市による女性のための尿失禁予防事業 (平成 19(2007)年～平成 28(2016)年) ・ 尿もれ予防講座講師 (北九州市委託事業) (平成 24(2012)年～現在に至る) ・ 尿もれ予防体験会講師 (北九州市委託事業) (平成 27(2015)年～現在に至る) ・ 福岡県理学療法士会論文査読者 (平成 29(2017)年 6 月～令和元(2019)年 6 月) ・ 第 6 回日本運動器理学療法学会学術大会講師 (平成 30(2018)年 12 月) ・ 福岡県理学療法士会 生活環境支援理学療法演題査読 (令和元(2019)年 6 月～令和 3(2021)年 6 月) ・ 福岡県理学療法士会 広報部部長 (令和元(2019)年 6 月～令和 3(2021)年 6 月) ・ 第 2 回臨床実習指導者福岡県講習会講師 (令和元(2019)年 8 月) ・ 第 7 回日本運動器理学療法学会学術大会一般演題座長 (令和元(2019)年 10 月) ・ 第 4 回臨床実習指導者福岡県講習会世話人 (令和元(2019)年 10 月) ・ 第 29 回福岡県理学療法士会 座長 (令和 2(2020)年 2 月) ・ 福岡県理学療法士会広報部部長 (令和元(2019)年 6 月～現在に至る) ・ 北九州市障害支援区分認定審査会委員 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)
所属学会	<p>日本理学療法士協会 会員 (平成 7(1995)年 4 月～現在に至る)</p> <p>認定理学療法士 (介護予防) (日本理学療法士協会) 登録番号 08-293 (平成 20(2008)年 9 月～現在に至る)</p> <p>専門理学療法士 (生活環境支援理学療法士) (日本理学療法士協会) 登録番号 5-68 (平成 21(2009)年 12 月～現在に至る)</p> <p>日本老年泌尿器科学会 会員 (平成 27(2015)年～現在に至る)</p> <p>NPO 法人 排泄ケアを考える会 幹事 (平成 27(2015)年～現在に至る)</p> <p>日本健康教育学会 会員 (平成 29(2017)年～現在に至る)</p>
受賞歴	<p>第 28 回日本老年泌尿器科学会学会会長賞受賞 (平成 27(2015)年 5 月)</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・理学療法評価学統合演習Ⅰ ・内部障害系理学療法Ⅱ ・理学療法基礎演習 ・理学療法専門演習 ・理学療法研究法演習Ⅱ ・理学療法卒業研究 ・コンディショニング科学 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	■ 循環器疾患の理学療法 ※3 学会合同呼吸療法認定士 ※心臓リハビリテーション指導士 ※専門理学療法士 (内部障害)
最 終 学 歴	九州保健福祉大学大学院 (通信制) 修士課程修了 (平成 29(2017)年 3 月)
学 位	修士 (保健科学)
職 歴	○社会保険小倉記念病院入職、理学療法士免許取得 (第 26542 号) (平成 9(1997)年 4 月) 社会保険小倉記念病院退職 (平成 19(2007)年 3 月) 専門学校 九州リハビリテーション大学校 講師 (平成 19(2007)年 4 月～平成 25(2013)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 講師 (平成 25(2013)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	・日本理学療法士協会 循環器卒前教育を考える Part3 「教育ガイドラインはどのようにできたか、基本的考え方と作成プロセス」講師 (平成 23(2011)年 1 月) ・福岡県理学療法士会 北九州支部研修会「循環器疾患への対応について」講師 (平成 23(2011)年 9 月) ・介護サービス従事者向け高齢者排泄ケア講習会「下部尿路障害とその対処法」講師 (平成 26(2014)年 11 月)
主な研究活動	【著書】 1. 理学療法管理学(10 章-2 慢性期呼吸器疾患のマネジメント). (株)医歯薬出版, 2018
	【学術論文】
	1. 神崎良子, 吉田遊子, 中藤佳絵 「北九州市における尿失禁予防教室 第 2 報—教室の効果と今後の課題—」 (九州栄養福祉大学研究紀要 8, 307-316, 2011)
	2. 神崎良子, 森田 潤, 高橋精一郎, 橋元 隆 「北九州市介護予防十二式太極拳 (ひまわりタイチー) における運動負荷の検証」 (九州栄養福祉大学研究紀要 10, 77-86, 2013)
	3. 神崎良子, 松尾大樹, 林 佑, 中井恵美, 松崎英章, 竹田裕亮, 末松廣郎, 津上 勝, 木村美子, 大峯三郎 「高齢透析患者に対する低負荷運動療法についての一考察」 (九州栄養福祉大学研究紀要 12, 19-26, 2015)
	4. 神崎良子, 木村美子, 吉田大輔, 四元孝道, 室井廣大, 石橋敏郎, 大丸 幸 「リハビリテーション学部における就職支援について -学生に対する就職アンケートの分析から-」 (九州栄養福祉大学研究紀要 13, 195-205, 2016)

	<p>5. 神崎良子, 井元 淳, 木村多寿子, 嶋田誠治, 佐藤祥代, 鱈居祐輔, 曾我芳光, 安藤献児, 樋口博之: 「末梢動脈疾患患者に対する血管内治療後の在宅運動療法の効果」 (日本心臓リハビリテーション学会誌 24 巻 3・4 号, 226-231, 2018)</p> <p>6. 西井久枝, 吉田正貴, 吉田遊子, 中藤佳絵, 神崎良子, 橋元隆, 上田真由美, 山下博志, 松本哲朗, 藤本直浩 「健康長寿を目指した高齢者排尿管理における多職種連携」 (西日本泌尿器科 80 (5) 208-218, 2018)</p> <p>7. 吉田遊子, 中藤佳絵, 神崎良子 「尿漏れ予防体験会参加者の講座内容理解度と尿漏れ予防対策継続実施状況の検討 ～介護予防事業における理学療法士の関わりから～」 (九州栄養福祉大学研究紀要 16, 25-36, 2019)</p> <p>8. 松崎英章, 松尾大樹, 林佑, 津上勝, 川嶋恵美, 末松廣郎, 神崎良子, 大峯三郎, 木村美子 「高齢入院患者に対する低強度運動の安全性と有効性」 (日本ヒューマンケア・ネットワーク学会誌 17 (1) , 115-124, 2019)</p>
【発表】	
	<p>1. 松崎英章, 中井恵美, 神崎良子, 津上 勝 「入院高齢人工透析患者に対する低強度運動負荷の経験」 (第 5 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2015)</p> <p>2. 中井恵美, 松崎英章, 神崎良子, 津上 勝 「入院高齢人工透析患者に対する低強度運動負荷の経験・栄養状態に着目して」 (第 5 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 2015)</p> <p>3. 神崎良子, 吉田遊子, 中藤佳絵, 橋元 隆, 佐野志郎, 久保かおり, 西井久枝, 松本哲朗 「北九州市における「女性のための尿失禁予防教室」参加者の高齢者実態調査について」 (第 28 回日本老年泌尿器科学会学術集会, 2015)</p> <p>4. 吉田遊子, 神崎良子, 中藤佳絵, 橋元 隆, 佐野志郎, 久保かおり, 西井久枝, 松本哲朗 「北九州市における高齢者尿失禁予防事業への関わり・理学療法士の立場から」 (第 28 回日本老年泌尿器科学会学術集会, 2015)</p> <p>5. 神崎良子, 井元 淳, 木村多寿子, 嶋田誠治, 佐藤祥代, 鱈居祐輔, 曾我芳光, 安藤献児, 樋口博之 「末梢動脈疾患患者に対する血管内治療後の在宅運動療法の効果」 (第 23 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2017)</p> <p>6. 川村良太, 神崎良子, 手嶋祐佳, 田中愛子, 冬野喜郎, 古賀義則, 瀬川 潤, 岡崎昌博 「地域包括ケア病床に転棟する当院心不全患者の特徴」 (第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2018)</p> <p>7. 神崎良子, 木村多寿子, 嶋田誠治, 佐藤祥代, 甲斐辰徳, 曾我芳光, 安藤献児 「心臓再同期療法後の運動耐容能の変化と遠隔期における運動習慣との関連」 (第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 2018)</p> <p>8. 神崎良子, 中藤佳絵, 吉田遊子, 橋元 隆, 久保かおり, 宮永敬市, 西井久枝, 松本哲朗 「北九州市における尿もれ予防教室の効果」 (第 5 回日本予防理学療法学会学術集会, 2018)</p> <p>9. 大場健一郎・神崎良子・津田徹, 他 「高頻拍の COPD 患者に対する β_1 遮断薬が身体機能へ及ぼす影響」 (第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会, 2019)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市女性のための尿失禁予防教室 (北九州市委託事業) (平成 19(2007)年 4 月～平成 27(2015)年 3 月) ・北九州市立年長者研修大学校講師 (平成 19(2007)年～現在に至る) ・北九州市介護認定審査会審査委員 (平成 22(2010)年 2 月～現在に至る) ・メディックスクラブ (維持期心臓リハビリテーション) 小倉支部運営委員 (平成 23(2011)年～令和 2(2020)年 12 月)

	・尿もれ予防相談会 講師 (北九州市委託事業) (平成 24(2012)年～現在に至る)
	・尿もれ予防体験会 講師 (北九州市委託事業) (平成 27(2015)年～現在に至る)
	・第 22 回日本心臓リハビリテーション学会「患者さんの声を聞こう part2」講師 (平成 28(2016)年 7 月)
	・第 100 回福岡県理学療法士会学術研修大会 座長 (平成 29(2017)年 6 月)
	・心血管理学療法ガイドライン第 2 版 SR チーム (平成 30(2018)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)
	・北部福岡 NST 研究会世話人 (平成 30(2018)年 4 月～現在に至る)
	・九州理学療法士学術集会 2019 座長 (口述) (令和元(2019)年 10 月)
	・介護認定調査員向け研修会 講師 (令和元(2019)年 10 月)
	・第 29 回福岡県理学療法士学会シンポジウム講師 (令和 2(2020)年 2 月)
	・ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門ガイドライン翻訳事業 (令和 2(2020)年 8 月～11 月)
所属学会	日本理学療法士協会会員 (平成 9(1997)年～現在に至る) 日本心臓リハビリテーション学会会員 (平成 13(2001)年～現在に至る) 日本心血管インターベーション学会会員 (平成 13(2001)年～現在に至る) 日本呼吸療法医学会会員 (平成 16(2004)年～現在に至る) NPO 法人 ジャパンハートクラブ活動会員 (平成 17(2005)年～現在に至る) NPO 法人 日本コンチネンス協会会員 (平成 25(2013)年～現在に至る) 日本腎臓リハビリテーション学会会員 (平成 26(2014)年～現在に至る) 排泄ケアを考える会会員 (平成 27(2015)年～現在に至る)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科	
担 当 科 目	<p>[リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎生物学 ・生理学Ⅰ、生理学Ⅱ ・解剖生理学総合実習 <p>[リハビリテーション学部 理学療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートアップ教育Ⅰ、スタートアップ教育Ⅱ ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・理学療法研究法演習Ⅱ ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ 	
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 常態系口腔科学 ■ 口腔再生医学 ■ 外科系歯学 	
最 終 学 歴	日本大学大学院 歯学研究科歯学専攻博士課程 修了	
学 位	博士 (歯学) 学士 (歯学)	
職 歴	<p>東海大学医学部付属病院 歯科医師臨床研修医 (平成12(2000)年4月～平成13(2001)年3月)</p> <p>埼玉医科大学病院 歯科医師臨床研修医 (平成13(2001)年5月～平成14(2002)年4月)</p> <p>○仁厚会病院口腔外科 歯科医師 (平成14(2002)年5月～平成18(2006)年1月)</p> <p>海外研修 (カナダ) (平成18(2006)年1月～平成19(2007)年12月)</p> <p>医療法人社団高輪会 訪問歯科診療部 歯科医師 (平成20(2008)年5月～平成23(2011)年3月)</p> <p>日本大学歯学部解剖学第Ⅱ講座 兼任講師 「組織実習」、「口腔組織実習」、「発生学実習」担当 (平成21(2009)年4月～平成23(2011)年3月)</p> <p>日本大学歯学部解剖学第Ⅱ講座 助手 ○「組織実習」、「口腔組織実習」、「発生学実習」担当 (平成23(2011)年4月～平成27(2015)年3月)</p> <p>日本大学歯学部附属歯科技工専門学校 兼担講師 ○「歯の解剖学Ⅱ」担当 (平成24(2012)年4月～平成29(2017)年3月)</p> <p>日本大学歯学部解剖学第Ⅱ講座 助教 ○「口腔組織学」、「発生学」、「Approaches to Basic Research」、「専門総合特別講義Ⅰ」、「組織実習」、「歯の解剖学実習」、「口腔組織実習」、「歯科学統合演習Ⅴ」、「歯科学統合演習Ⅵ」担当 (平成27(2015)年4月～平成29(2017)年3月)</p> <p>日本大学大学院歯学研究科 助教 ○「発生・組織学」、「口腔解剖学」担当 (平成27(2015)年4月～平成29(2017)年3月)</p> <p>名古屋歯科医療専門学校 歯科技工士科 非常勤講師 ○「歯の解剖学Ⅰ」担当 (平成28(2016)年4月～令和3(2021)年3月)</p> <p>愛知学院大学歯学部口腔解剖学講座 講師 ○「細胞の構造と機能」、「歯の構造」、「実習：細胞の構造と機能」、「実習：歯の構造」、「歯科臨床解剖学」、「総合示説」、「歯学入門セミナーⅤ」担当 (令和3(2017)年4月～令和3(2021)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 准教授 ○「解剖生理学総合実習」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「基礎生物学」、「スタートアップ教育Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法研究法演習Ⅱ」、「理学療法卒業研究」、「臨床実習Ⅰ」 (令和3(2021)年4月～現在に至る)</p>	
免 許 資 格 等	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医師免許 (平成12(2000)年4月28日 歯科医籍登録) ・衛生検査技師免許 (平成14(2002)年4月2日 衛生検査技師名簿登録) ・日本再生医療学会再生医療認定医 ・日本再生医療学会臨床培養士、上級臨床培養士 	

特 許 等	<p>・iPS細胞の高効率な樹立方法 発明者：日本大学 本田雅規、<u>鳥海拓</u> 特許番号：第6128511号（平成29(2017)年4月）</p>
競争的資金獲得状況	<p>1. 科学研究費補助金「基盤研究（B）」〔研究分担者〕 日本学術振興会（平成24(2012)年4月～平成27(2015)年3月） 課題名称：臨床応用を目指したヒト成体細胞からの歯の再生技術の確立 課題番号：24390447 研究代表者：本田雅規 研究分担者：磯川桂太郎、湯口眞紀、<u>鳥海拓</u>、山崎洋介</p> <p>2. 科学研究費補助金「基盤研究（B）」〔研究分担者〕 日本学術振興会（平成27(2015)年4月～平成30(2018)年3月） 課題名称：iPS細胞から誘導した神経堤細胞による歯の再生と歯形成細胞への分化機構の解明 課題番号：15H05037 研究代表者：本田雅規 研究分担者：<u>鳥海拓</u>、磯川桂太郎、湯口眞紀</p> <p>3. 日本大学歯学部総合歯学研究所研究費（A）〔研究代表者〕 日本大学総合歯学研究所（平成28(2016)年4月～平成29(2017)年3月） 課題名称：iPS細胞と人工神経管を利用した末梢神経再生療法の開発 研究分担者：磯川桂太郎、山崎洋介、湯口眞紀、本田訓也</p> <p>4. 科学研究費補助金「基盤研究（C）」〔研究代表者〕 日本学術振興会（平成28(2016)年4月～平成31(2019)年3月） 課題名称：iPS細胞由来神経堤細胞が軸索再生に及ぼす効果と作用機序の解明 課題番号：16K11703 研究代表者：<u>鳥海拓</u> 研究分担者：本田雅規、磯川桂太郎</p> <p>5. 科学研究費補助金「基盤研究（C）」〔研究分担者〕 日本学術振興会（平成29(2017)年4月～令和3(2021)年3月） 課題名称：結合組織性付着に有効な因子を使った新規歯周組織治療法開発の基盤研究 課題番号：17K12000 研究代表者：菱川敏光 研究分担者：<u>鳥海拓</u>、本田雅規</p> <p>6. 科学研究費補助金「基盤研究（C）」〔研究分担者〕 日本学術振興会（令和2(2020)年4月～継続中） 課題名称：ヒト歯肉オルガノイドを用いた歯肉炎症および自己免疫疾患誘導メカニズムの探索 課題番号：20K09913 研究代表者：津田啓方 研究分担者：三上剛和、<u>鳥海拓</u>、篠塚啓二</p>
教育上の業績 〔教育方法の実践例等〕	<p>○日本大学歯学部附属歯科技工専門学校の特設科目「歯の解剖学Ⅱ」 （夜間3年次配当、前期）兼担講師（平成24(2012)年4月～平成28(2016)年9月） 実際の抜去歯に触れることにより、歯の形態のバリエーションを理解させ、歯への興味を高める取り組み</p> <p>○学位論文指導実績（平成27(2015)年4月～平成29(2017)年3月） 日本大学大学院歯学研究科博士課程における指導。 指導人数：1名（博士） 論文題目：Derivation of neural crest cells from human dental pulp-derived induced pluripotent stem cells（ヒト歯髄細胞由来iPS細胞から神経堤細胞への分化誘導）</p> <p>○日本大学歯学部学習指導委員会委員（2015年4月～2017年3月）</p> <p>○日本大学歯学部CBT（Computer Based Test）ブラッシュアップ委員会 （平成27(2015)年4月～平成29(2017)年3月）</p> <p>○日本大学歯学部歯学科の実習（専門）科目「歯の解剖学実習」 （2年次配当、前期）専任教員（助教）（平成28(2016)年4月～平成28(2016)年9月） 毎回の小テスト実施により成績不振者を早期に把握し、理解度を向上させるための補講の開講</p> <p>○日本大学インテーカー認定（平成28(2016)年9月～平成29(2017)年3月）</p>

	<p>○愛知学院大学歯学部歯学科の実習（専門）科目「実習：細胞の構造と機能」 （2年次配当、通年）専任教員（講師）（平成28(2018)年12月～令和3(2021)年3月） 歯の発生過程の標本を発生段階ごとにバーチャルスライド化</p> <p>○愛知学院大学歯学部コミュニケーションサポートシステム(CSS)担当教員 （平成31(2019)年4月～令和3(2021)年3月）</p> <p>○愛知学院大学歯学部歯学科の専門科目「細胞の構造と機能」「実習：細胞の構造と機能」 （2年次配当、通年）専任教員（講師）（令和2(2020)年4月～令和3(2021)年3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを駆使した遠隔授業の工夫 ・一人担当の実習科目において、対面・遠隔で異なる実習内容を同一時間で実施する工夫 ・他教員の遠隔授業サポート
	<p>【作成した教材等】</p>
	<p>1. 日本大学歯学部歯学科の演習(専門)科目「歯科学統合演習 VIb」演習用教材 （2016年度はA4判カラー、53頁で構成）（平成27(2015)年8月～平成28(2016)年8月） 「歯科学統合演習 VIb」（専門科目、6年次配当、後期）の夏期2日間の集中講義用の教材を作成した。組織学・口腔組織学・発生学・歯の発生学・歯の解剖学の5分野から構成され、この一冊で歯科医師国家試験の当該分野を網羅している。なお、毎年更新した。</p> <p>2. 愛知学院大学歯学部歯学科の専門科目「細胞の構造と機能」講義資料 （A4判カラー、一講義20頁程度で構成）（平成29(2017)年4月～令和3(2021)年3月） 「細胞の構造と機能」（専門科目、2年次配当、通年）の講義用教材を作成した。本講義は、組織学、発生学、歯の発生学から構成され、応募者は組織学と発生学を担当している。記憶の定着を図るために実習とのリンクに力を入れ、国家試験対策としても利用できるように、組織像を多く含む構成である。講義毎に、教材はPDF化して学生にオンライン配信している。なお、毎年更新した。</p> <p>3. 愛知学院大学歯学部歯学科の実習（専門）科目「実習：細胞の構造と機能」実習マニュアル （令和元年度はA4判白黒、組織学28頁、発生学11頁で構成）（平成30(2018)年12月～令和3(2021)年3月） 「実習：細胞の構造と機能」（専門科目、2年次配当、通年）の実習用マニュアルを作成した。講義で学修した知識と実習で描いたスケッチを関連づけられるように、組織学・歯の発生学の必須知識の修得を目指したチェックリストを設けたことが特徴である。なお、毎年更新した。</p>
<p>主な研究活動</p>	<p>【著書】</p>
	<p>1. 「チェアーサイドのレントモグラフィを視るガイドブック」(共著) 分担執筆：佐々木次郎、中村登貴子、<u>鳥海拓</u>、横澤弘、李貴華 デンタルダイヤモンド社（平成15(2003)年6月）</p> <p>(概要) 地域の歯科開業医より市中病院の口腔外科へ紹介された患者のパノラマX線写真のうち、重要と考えられる39枚をピックアップし、症例および解剖学的特徴を解説している。 担当部分：超難抜歯の上顎智歯、TWINSの智歯、根がこんなに彎曲しているとは、全身麻酔に切り替えて智歯を抜歯した症例、下唇のしびれが出現しても抜くのを嫌がった患者さん、自覚・他覚症状のない含菌性嚢胞、巨大な上顎嚢胞、球状上顎嚢胞、歯原性角化嚢胞-2、慢性骨髄炎による腐骨分離像 全60ページのうち、以下10ページを担当 p.12, p.14, p.20, p.22, p.30, p.31, p.36, p.37, p.39, p.47 (担当部分は全て単著)</p>
	<p>【学術論文】</p>
	<p>1. Progressive bundling of fibrillin microfibrils into oxytalan fibers in the chick presumptive dermis (共著) (査読付) 共著者：Shinozuka K, Yamazaki Y, Yuguchi M, <u>Toriumi T</u>, Suzuki R, Tsuruga E, Isokawa K. The Anatomical Record Vol.296, No.1, pp.71-78（平成25(2013)年1月）</p> <p>(概要) 発生中の鶏胚肢芽の真皮予定域に焦点をあて、フィブリリンマイクロフィブリルの数の増加によるオキシタラン線維の形成過程を示した。</p>

2. The P75 neurotrophin receptor regulates proliferation of the human MG63 osteoblast cell line (共著) (査読付)

共著者 : Akiyama Y, Mikami Y, Watanabe E, Watanabe N, Toriumi T, Takahashi T, Komiyama K, Isokawa K, Shimizu N, Honda MJ.

Differentiation Vol.87, No.3-4 (平成 26(2014)年 3 月)

(概要)

骨芽細胞分化における p75NTR の機能を明らかにした。p75NTR とチロシンキナーゼ受容体との共受容体を介するシグナル伝達は細胞増殖と骨芽細胞分化を促進することを示した。

3. Periodontal tissue regeneration by transplantation of rat adipose-derived stromal cells in combination with PLGA-based solid scaffolds (共著) (査読付)

共著者 : Akita D, Morokuma M, Saito Y, Yamanaka K, Akiyama Y, Sato M, Mashimo T, Toriumi T, Arai Y, Kaneko T, Tsukimura N, Isokawa K, Ishigami T, Honda MJ.

Biomedical Research Vol.35, No.2, pp.91-103 (平成 26(2014)年 4 月)

(概要)

ラット歯周組織欠損モデルにラット脂肪組織由来間質細胞(ASCs)と PLGA 担体の複合体を移植し歯周組織再生能を検討した。PLGA 担体が歯周組織の再生の場を確保し、ASCs が歯槽骨、セメント質様硬組織および線維性の歯根膜組織の再生を促進することを示した。

4. Characterization of mesenchymal progenitor cells in crown and root pulp from human mesiodentes (共著) (査読付)

共著者 : Sato M, Toriumi T, Watanabe N, Watanabe E, Akita D, Mashimo T, Akiyama Y, Isokawa K, Shirakawa T, Honda MJ.

Oral Diseases Vol.21, No.1, pp.e86-e97 (平成 27(2015)年 1 月)

(概要)

ヒト正中埋伏過剰歯 10 例から採取した歯髄を歯冠部と歯根部に分離し、歯髄の歯冠細胞と歯根細胞の特性を比較解析した。CD105 陽性細胞の割合が高い細胞群ではコロニー形成能、細胞増殖能、骨芽細胞誘導能といった間葉系幹細胞の性質が高いことを示した。

5. Characterization of mesenchymal progenitor cells in the crown and root pulp of primary teeth (共著) (査読付)

共著者 : Toriumi T, Takayama N, Murakami M, Sato M, Yuguchi M, Yamazaki Y, Eto K, Otsu M, Nakauchi H, Shirakawa T, Isokawa K, Honda MJ.

Biomedical Research Vol.36, No.1, pp.31-45 (平成 27(2015)年 2 月)

(概要)

ヒト乳歯歯髄を歯冠部と歯根部に分離し、歯髄の歯冠細胞と歯根細胞の特性を比較解析した。そして、iPS 細胞の樹立を試みると、その樹立効率率は歯根細胞を利用した方が高く、両細胞の特性は異なることを示した。

6. Mesenchymal progenitor cells in the root pulp of human primary teeth (ヒト乳歯の歯根部歯髄間葉系細胞に関する研究) (博士論文)

日本大学 pp.1-32 (平成 27(2015)年 2 月)

(概要)

未だ報告のない乳歯歯根部の歯髄細胞について、その細胞学的特性を明らかにした。歯根部歯髄細胞は、歯冠部より細胞増殖能、コロニー形成能と KLF4 発現が有意に高く、iPS 細胞の樹立効率も良かった。歯根部歯髄細胞は iPS 細胞の作製とそれに続く移植療法にとって有用であり、新たな細胞源となる可能性が示唆された。

7. Use of rat mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells as a cell source for periodontal tissue regeneration (共著) (査読付)

共著者 : Akita D, Kano K, Saito-Tamura Y, Mashimo T, Sato-Shionome M, Tsurumachi N, Yamanaka K, Kaneko T, Toriumi T, Arai Y, Tsukimura N, Matsumoto T, Ishigami T, Isokawa K, Honda M.

Frontiers in Physiology Vol.7, No.50, pp.1-12 (平成 28(2016)年 2 月)

(概要)

ラット歯周組織欠損モデルに、脱分化脂肪(DFAT)細胞または脂肪幹細胞(ASCs)を移植して歯周組織再生能を比較した。移植後の硬組織再生量において、DFAT 細胞移植群が ASCs 移植群よりも有意に高いことを示した。

8. Small buccal fat pad cells have high osteogenic differentiation potential (共著) (査読付)

共著者 : Tsurumachi N, Akita D, Kano K, Matsumoto T, Toriumi T, Kazama T, Oki Y, Tamura Y, Tonogi M, Isokawa K, Shimizu N, Honda M.

Tissue Engineering : Part C Vol.22, No.3 pp. 250–259 (平成 28(2016)年 3 月)

(概要)

顎変形症患者の頬脂肪体から単離した成熟脂肪細胞を大きさで分類した。各細胞から得られる脱分化脂肪細胞 (S-DFAT 細胞および L-DFAT 細胞) の特性を解析すると、骨芽細胞への誘導能において、S-DFAT 細胞が L-DFAT 細胞よりも有意に高いことを示した。

9. Induction of neural crest cells from human dental pulp-derived induced pluripotent stem cells (共著) (ヒト歯髄細胞由来多能性幹細胞から神経堤細胞への分化誘導) (査読付)

共著者 : Kawano E, Toriumi T, Iguchi S, Suzuki D, Sato S, Honda M.

Biomedical Research Vol.38, No.2, pp.135–147 (平成 29(2017)年 4 月)

(概要)

ヒト乳歯歯髄由来 iPS 細胞から神経堤細胞への分化誘導を試みた。誘導された細胞は、遺伝子発現解析と免疫細胞染色により神経堤細胞の特性を認めた。さらに、*In vitro* の分化誘導実験では、骨芽細胞様およびシュワン細胞様細胞に分化し、*in vivo* 移植実験では、骨様組織と軟骨様組織が形成されることを示した。

10. Transplantation of mature adipocyte-derived dedifferentiated fat cells into three-wall defects in the rat periodontium induces tissue regeneration (共著) (査読付)

共著者 : Suzuki D, Akita D, Tsurumachi N, Kano K, Yamanaka K, Kaneko T, Kawano E, Iguchi S, Toriumi T, Arai Y, Matsumoto T, Sato S, Honda M.

Journal of Oral Science Vol.59, No.4, pp.611–620 (平成 29(2017)年 12 月)

(概要)

ラット歯周病 3 壁性骨欠損モデルへ、脱分化脂肪 (DFAT) 細胞と PLGA 担体を組み合わせて移植し、歯周組織の再生を検討した。DFAT 細胞を播種した担体は再生の場を確保し、また DFAT 細胞が骨芽細胞への分化能を有することで、正常組織と同程度まで歯周組織を再生させることを示した。

11. Effect of local bone marrow stromal cell administration on ligature-induced periodontitis in mice (共著) (査読付)

共著者 : Iguchi S, Suzuki D, Kawano E, Mashimo T, Kajiya M, Toriumi T, Kawai T, Kurihara H, Isokawa K, Sato S, Honda M

Journal of Oral Science Vol.59, No.4, pp.629–637 (平成 29(2017)年 12 月)

(概要)

骨髄間質細胞 (BMSCs) が歯周炎の進行抑制に有用であることを歯周炎動物モデルへ投与して検討した。BMSCs は炎症歯肉部に定着し、炎症および歯槽骨の吸収を抑制したことを示した。

12. Effect of collagenase concentration on the isolation of small adipocytes from human buccal fat pad (共著) (査読付)

共著者 : Tsurumachi N, Akita D, Kano K, Matsumoto T, Toriumi T, Kazama T, Oki Y, Saito-Tamura Y, Tonogi M, Shimizu N, Honda M.

Journal of Oral Science Vol.60, No.1, pp.14–23 (平成 30(2018)年 3 月)

(概要)

ヒト頬脂肪体から直径 40 μ m 未満の成熟脂肪細胞を分離するのに最適なコラゲナーゼ酵素処理濃度を検討した。コラゲナーゼ濃度 0.02%での消化時に、直径 40 μ m 未満の成熟脂肪細胞が最も多く得られ、また、その細胞から得られた脱分化脂肪細胞は骨芽細胞への分化能が一番高いことを示した。

13. Odontogenic tissue generation derived from human induced Pluripotent Stem cells using tissue engineering application (共著) (査読付)

共著者 : Toriumi T, Kawano E, Yamanaka K, Kaneko T, Oka A, Yuguchi M, Isokawa K, Honda M.

Journal of Hard Tissue Biology Vol.27, No.3, pp.257–268 (平成 30(2018)年 7 月)

(概要)

ヒト iPS 細胞から歯を形成する細胞への分化能を移植実験により検討した。iPS 細胞にブタ歯胚細胞を混合してラットへ移植したところ、一塊の硬組織を認め、これらはエナメル質様、象牙質様およびセメント質様組織で構成されていた。免疫組織学的解析により、ヒト iPS 細胞がエナメル芽細胞、象牙芽細胞およびセメント細胞へ分化したことを示した。

14. Transplantation effects of dental pulp-derived cells on peripheral nerve regeneration in crushed sciatic nerve injury (共著) (査読付)

共著者 : Okuwa Y, Toriumi T, Nakayama H, Ito T, Otake K, Kurita K, Nakashima M, Honda M.
Journal of Oral Science Vol.60, No.4, pp.526-535 (平成 30(2018)年 12 月)

(概要)

ヒト歯髄幹細胞の末梢神経再生効果を検討した。ラット坐骨神経圧挫モデルにヒト歯髄細胞を移植したところ、細胞移植群は、運動機能テストにて術後 7 日目以降で有意に回復の傾向がみられた。また、細胞移植群のラット坐骨神経中には、術後 14 日目においてもヒトミトコンドリア陽性細胞の存在を認めた。これらの結果から、移植した歯髄細胞が損傷部位に留まり、損傷末梢神経の再生を促進した可能性を示した。

15. Bone marrow-derived mesenchymal stem cells enhance bone marrow regeneration in dental extraction sockets (共著) (査読付)

共著者 : Mashimo T, Sato Y, Akita D, Toriumi T, Namaki S, Matsuzaki Y, Yonehara Y, Honda M.
Journal of Oral Science Vol.61, No.2, pp.284-293 (令和元(2019)年 6 月)

(概要)

抜歯窩の骨増生における骨髄由来間葉系幹細胞の移植効果を検討した。マイクロ CT 解析と組織学的解析から、マウスの上顎第一臼歯の抜歯直後に細胞を移植すると、細胞が骨髄の再生量を増加させ、骨の治癒を促進させたことを示した。

16. Rat Palatine Fissure: A suitable experimental model for evaluating bone regeneration (共著) (査読付)

共著者 : Ito M, Toriumi T, Imura H, Akiyama Y, Arai Y, Natsume N, Honda M.
Tissue Engineering: Part C Vol.25, No.9, pp.513-522 (令和元(2019)年 9 月)

(概要)

ラット口蓋裂がヒト顎裂研究の移植部として適するかを検討した。同部位へ自家碎片骨と β -リン酸三カルシウム (β -TCP) を移植したところ、 β -TCP よりも自家骨移植で骨量と骨塩量が高い結果を得たことにより、ヒト顎裂への移植材料を検討するために、ラット口蓋裂は移植部として適していることを示した。

17. Transplantation of dedifferentiated fat cells combined with biodegradable scaffold based on type I collagen-recombinant peptide scaffold for critical-size bone defects in rats (共著) (査読付)

共著者 : Tateno A, Asano M, Akita D, Toriumi T, Matsumoto T, Kano K, Honda M.
Journal of Oral Science Vol.61, No.4, pp.534-538 (令和元(2019)年 11 月)

(概要)

新規骨補填材であるリコンビナントペプチド(RCP)が、脱分化脂肪 (DFAT) 細胞との併用で及ぼす骨再生効果を検討した。ラット下顎骨の臨界骨欠損へ移植すると、DFAT/RCP 群の条件において、骨欠損領域全体で新生骨が満たされたのを示した。

18. Recovery of sensory function after the implantation of oriented-collagen tube into the resected rat sciatic nerve (共著) (査読付)

共著者 : Otake K, Toriumi T, Ito T, Okuwa Y, Moriguchi K, Tanaka S, Isobe Y, Saku T, Kurita K, Honda M
Regenerative Therapy Vol.14, pp.48-58 (令和 2(2020)年 1 月)

(概要)

ラット坐骨神経切除モデルへの配向性コラーゲンチューブ (OCT) の移植効果を検討した。OCT 移植群では術後 9 日目に閾値の低下がみられ、術後 15 日では Sham 群と同程度まで低下した。これらの結果から、OCT 移植は末梢神経損傷で喪失した感覚機能の回復を促進することを示した。

19. Performance of Schwann cell transplantation into extracted socket after inferior alveolar nerve injury in a novel rat model (共著) (査読付)

共著者 : Ito T, Toriumi T, Otake K, Okuwa Y, Tanaka S, Arai Y, Kurita K, Honda M.
Journal of Oral Science Vol.62, No.4, pp.402-409 (令和 2(2020)年 9 月)

(概要)

臨床症例に則した下歯槽神経損傷モデルを考案し、下歯槽神経損傷研究のモデルとして有用であるかを検討した。シュワン細胞移植群は、対照群と比較すると知覚機能の回復が有意に早く、また髄鞘の形成が有意に多かった。これらの結果から、新規モデルの有用性、およびシュワン細胞移植による下歯槽神経再生の促進を示した。

20. Therapeutic potential for insulin on type 1 diabetes - associated periodontitis: Analysis of experimental periodontitis in streptozotocin - induced diabetic rats (共著) (査読付)

共著者 : Nishikawa T, Suzuki Y, Sawada N, Kobayashi Y, Nakamura N, Miyabe M, Miyajima SI, Adachi K, Minato T, Mizutani M, Toriumi T, Ohno N, Kikuchi T, Honda M, Noguchi T, Mitani A, Matsubara T, Naruse K.

Journal of Diabetes Investigation Vol.11, No.6, pp.1482-1489 (令和2(2020)年11月)

(概要)

ストレプトゾトシン誘発 I 型糖尿病ラットの歯周炎結紮モデルにおいて、歯周炎の局所治療なしに、インスリン治療で炎症性サイトカインの遺伝子発現が有意に減少することを示した。また、組織学的解析で炎症性細胞の浸潤は低下し、歯槽骨の吸収は抑制された。

21. Glucagon-like peptide-1 receptor agonist liraglutide ameliorates the development of periodontitis (共著) (査読付)

共著者 : Sawada N, Adachi K, Nakamura N, Miyabe M, Ito M, Kobayashi S, Miyajima SI, Suzuki Y, Kikuchi T, Mizutani M, Toriumi T, Honda M, Mitani A, Matsubara T, Naruse K.

Journal of Diabetes Research Vol.2020, pp.1-9 (令和2(2020)年11月)

(概要)

GLP-1 受容体の作動薬であるリラグルチドが歯周炎の改善に及ぼす効果を検討した。SD ラットの歯周炎結紮モデルで誘発した歯周炎において、リラグルチド投与群では、歯肉にて M1 マクロファージ、歯槽骨表面にて破骨細胞が減少し、歯槽骨の吸収が改善されたのを示した。

22. Bone formation potential of collagen type I-based recombinant peptide particles in rat calvaria defects (共著) (査読付)

共著者 : Akiyama Y, Ito M, Toriumi T, Hiratsuka T, Arai Y, Tanaka S, Futenma T, Akiyama Y, Yamaguchi K, Azuma A, Hata KI, Natsume N, Honda M.

Regenerative Therapy, Vol.16, pp.12-22 (令和3(2021)年3月)

(概要)

中等度架橋リコンビナントペプチド(mRCP)の骨組織形成能を *in vivo* 移植実験で検討した。移植後 4 週目のマイクロ CT 解析において、mRCP は自家碎片骨と同程度に骨組織を再生したことを示した。

23. Histological analysis of dental pulp response in immature or mature teeth after extra-oral subcutaneous transplantation into mice dorsum (共著) (査読付)

共著者 : Tanaka S, Toriumi T, Ito T, Okuwa Y, Futenma T, Otake K, Akiyama Y, Kurita K, Nagao T, Honda M.

Journal of Oral Science, Vol.63, No.2, pp.184-190 (令和3(2021)年3月)

(概要)

歯根未完成歯および歯根完成歯をマウス背部皮下へ異所性移植し、歯冠部および歯根部の歯髄内応答を組織学的に解析した。血管内皮細胞は冠部歯髄では宿主、根部歯髄ではドナー由来の細胞で構成された。また、移植した歯根未完成歯において、根部歯髄でネスチン陽性の象牙芽細胞様細胞を認めた。

24. Epithelial cell differentiation from human induced pluripotent stem cells using a single-cell culture method (共著) (査読付)

共著者 : Futenma T, Akiyama Y, Tanaka S, Honda M, Toriumi T.

Journal of Hard Tissue Biology, Vol.30, No.2, pp.151-160 (令和3(2021)年4月)

(概要)

シングルセルで培養したヒト iPS 細胞を利用し、表皮外胚葉由来の上皮細胞への分化能と誘導方法を検討した。28 日間の分化誘導により、誘導細胞は上皮細胞の各種マーカー遺伝子を順次発現し、表皮外胚葉由来の上皮細胞の特性を有することを示した。

【総説】

1. Current status of drug therapies for osteoporosis and the search for stem cells adapted for bone regenerative medicine (共著) (査読付)

共著者 : Mikami Y, Matsumoto T, Kano K, Toriumi T, Somei M, Honda MJ, Komiyama K.

Anatomical Science International Vol.89, No.1, pp.1-10 (平成26(2014)年1月)

(概要)

骨疾患の代表的な薬剤であるビスホスホネートと副甲状腺ホルモンの機序を解説するとともに 2 つの新規な骨形成促進剤 SST-VEDI と SSH-BMI を紹介している。また、骨の再生医療のための幹細胞治療の可能性について、脱分化脂肪細胞と乳歯歯髄由来幹細胞の特性を概説した。

	<p>2. Characterization of coronal pulp cells and radicular pulp cells in human teeth (共著) (査読付) 共著者: Honda M, Sato M, Toriumi T. Journal of Endodontics Vol.43, No.9S, pp.S35-S39 (平成 29(2017)年 11 月)</p> <p>(概要) 乳歯、過剰歯、そして永久歯の歯髄を歯冠部と歯根部に分け、それらから得られる歯冠細胞および歯根細胞の細胞特性について概説した。</p>
【その他の論文】	
	<p>1. ICD として知っておきたい菌名の変更 1 ペプトストレプトコッカス (共著) (査読付) 共著者: 鳥海拓、佐々木次郎。 歯科薬物療法 23 巻, 1 号 pp.28-30 (平成 16(2004)年 4 月)</p> <p>(概要) Moncla J.M. & Hillier S.L.(2003)による変更の主な提案の概要を報告した。ヒトから検出されるペプトストレプトコッカスでは菌性感染症において検出頻度の高い Peptostreptococcus magnus が Finegoldia magna に、また Peptostreptococcus micros が Micromonas micros に変更になった。</p>
	<p>2. ICD として知っておきたい菌名の変更 2 レンサ球菌 (共著) (査読付) 共著者: 鳥海拓、佐々木次郎。 歯科薬物療法 23 巻, 2 号 pp.62-65 (平成 16(2004)年 8 月)</p> <p>(概要) Moncla J.M. & Hillier S.L.(2003)による菌名の変更における第 2 報である。レンサ球菌はグループ分類の変更が主であり、その変更は DNA-DNA ハイブリダイゼーションによるものであった。</p>
【学会発表】 2017 年 4 月以降を掲載	
	<p>1. 「iPS 細胞由来神経堤細胞を利用した下歯槽神経の再生」(口頭発表) 共同発表者: 鳥海拓、渡辺雅弘、岡篤志、篠田雅路、磯部仁博、佐久太郎、岩田幸一、磯川桂太郎、本田雅規 (主 催 等) 第 37 回日本歯科薬物療法学会学術大会 (開 催 場 所) 愛知県名古屋市 (開 催 年 月) 平成 29(2017)年 6 月</p> <p>(概要) 損傷末梢神経の細胞治療における細胞源を検討する目的で、iPS 細胞由来神経堤細胞をラット下歯槽神経切除モデルへ移植した。再生神経中にヒトミトコンドリアとシュワン細胞マーカーに共陽性細胞を認めた。 担当部分: iPS 細胞培養、神経堤細胞への分化誘導、担体への細胞播種、免疫組織化学</p>
	<p>2. 「ラット下歯槽神経切除モデルにおける iPS 細胞由来神経堤細胞の移植効果」(口頭発表) 共同発表者: 鳥海拓、渡辺雅弘、篠田雅路、普天間拓、岩田幸一、磯川桂太郎、本田雅規 (主 催 等) 第 59 回歯科基礎医学会学術大会 (開 催 場 所) 長野県塩尻市 (開 催 年 月) 平成 29(2017)年 9 月</p> <p>(概要) ラット下歯槽神経切除部にヒト iPS 細胞由来神経堤細胞を移植し、細胞治療の効果を検討した。再生神経における軸索マーカー陽性有髄線維数は、シュワン細胞移植群と比較して有意な差はなかった。 担当部分: iPS 細胞培養、神経堤細胞への分化誘導、担体への細胞播種、免疫組織化学</p>
	<p>3. 「Dentin and cementum engineering from neural crest cells derived from human induced pluripotent stem cells」(ポスター発表) 共同発表者: Toriumi T, Kawano E, Yuguchi M, Isokawa K, Honda M. (主 催 等) The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research (第 65 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会) (開 催 場 所) 東京都 (開 催 年 月) 平成 29(2017)年 11 月</p> <p>(概要) ヒト iPS 細胞由来神経堤細胞が歯の硬組織形成能を有するかを <i>in vivo</i> で検討した。同細胞をブタ歯胚上皮と組み合わせてラットへ移植すると、16 週目で移植体中に象牙質様およびセメント質様組織を認めた。 担当部分: ヒト iPS 細胞の培養、神経堤細胞への分化誘導、ブタ下顎骨より歯胚を摘出、動物実験、組織学・免疫学的解析</p>

4. 「I型コラーゲン中空性担体を使用したラット坐骨神経の再生」(口頭発表)

共同発表者：大竹啓太、鳥海拓、大桑雄太、伊藤発明、磯部仁博、佐久太郎、栗田賢一、
 本田雅規

〈主 催 等〉第 17 回日本再生医療学会総会

〈開 催 場 所〉神奈川県横浜市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 3 月

(概要)

ラット坐骨神経欠損部における、コラーゲン配向性中空性担体移植の有用性を組織学的に解析した。
 担当部分：データ解析

5. 「ヒト iPS 細胞から分化した神経堤細胞の象牙芽細胞への分化能および象牙質形成能」(口頭発表)

共同発表者：鳥海拓、河野英輔、普天間拓、中村浩紀、湯口真紀、磯川桂太郎、本田雅規

〈主 催 等〉第 17 回日本再生医療学会総会

〈開 催 場 所〉神奈川県横浜市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 3 月

(概要)

ヒト iPS 細胞由来神経堤細胞の象牙芽細胞への分化能・象牙質形成能を移植実験で検討した。移植後 16 週目に摘出した移植体中には細管構造を有する硬組織を認め、これに面した細胞は抗ヒト核抗体で陽性を示した。

担当部分：細胞培養、分化誘導実験、移植実験、組織学・免疫学的解析

6. 「ラット坐骨神経挫滅モデルに対する歯髄細胞の有効性」(口頭発表)

共同発表者：大桑雄太、鳥海拓、伊藤発明、大竹啓太、中山英典、栗田賢一、本田雅規

〈主 催 等〉第 17 回日本再生医療学会総会

〈開 催 場 所〉神奈川県横浜市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 3 月

(概要)

挫滅した末梢神経に対するヒト歯髄細胞の移植効果を検討した。細胞移植群は、免疫組織化学で対照群よりも髄鞘マーカー陽性領域が広く、また、運動機能評価で対照群よりも指間距離が有意に広くなった。

担当部分：運動機能評価データ解析

7. 「動物実験モデルとしてのラット口蓋裂の評価」(口頭発表)

共同発表者：伊東雅哲、鳥海拓、夏目長門、本田雅規

〈主 催 等〉第 17 回日本再生医療学会総会

〈開 催 場 所〉神奈川県横浜市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 3 月

(概要)

ラット口蓋にある口蓋裂は骨空洞部であり、ヒト顎裂研究動物実験モデルとして有用であるかを検討した。自家骨移植 16 週後のマイクロ CT 解析で、母骨と連続する不透過像を認めた。

担当部分：データ解析

8. 「ヒト I 型コラーゲン様リコンビナントペプチドを用いた骨再生」(ポスター発表)

共同発表者：伊東雅哲、鳥海拓、夏目長門、本田雅規

〈主 催 等〉第 72 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会

〈開 催 場 所〉愛知県名古屋市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 5 月

(概要)

ヒト I 型コラーゲン様リコンビナントペプチド (RCP) をラット口蓋裂部に移植し、骨形成能を検討した。

担当部分：組織学的解析

9. 「ヒト iPS 細胞から誘導した神経堤細胞による硬組織再生」(口頭発表)

共同発表者：鳥海拓、本田雅規

〈主 催 等〉第 72 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会

〈開 催 場 所〉愛知県名古屋市

〈開 催 年 月〉平成 30(2018)年 5 月

(概要)

ヒト iPS 細胞由来神経堤細胞の硬組織形成能を移植実験で検討した。形成された組織を免疫組織学的に解析すると、神経堤細胞が象牙質様および骨様組織を形成したことを示した。

担当部分：細胞培養、分化誘導実験、移植実験、組織学・免疫学的解析

10. 「ラット坐骨神経切除モデルにおける配向性を有する I 型コラーゲン製チューブを用いた神経再生」(口頭発表)

共同発表者：大竹啓太、鳥海拓、本田雅規

(主 催 等) 第 60 回歯科基礎医学会学術大会

(開 催 場 所) 福岡県福岡市

(開 催 年 月) 平成 30(2018)年 9 月

(概要)

コラーゲン配向性中空性担体を使用し、ラット坐骨神経切除モデルの神経再生を試みた。知覚機能試験で、術後 12 日の担体留置群は健側とほぼ同程度の回復を認めた。

担当部分：データ解析

11. 「シングルセルにて培養したヒト iPS 細胞から上皮細胞への誘導法の検討」(口頭発表)

共同発表者：普天間拓、鳥海拓、本田雅規

(主 催 等) 第 18 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) 兵庫県神戸市

(開 催 年 月) 平成 31(2019)年 3 月

(概要)

シングルセルで培養したヒト iPS 細胞から上皮細胞への分化誘導の可能性を検討した。

担当部分：iPS 細胞のシングルセル培養を導入、遺伝子発現解析指導、データ解析

12. 「臨床症例に即したラット下歯槽神経損傷モデルへの細胞投与方法の開発」(口頭発表)

共同発表者：伊藤発明、鳥海拓、田中翔、普天間拓、大竹啓太、大桑雄太、栗田賢一、本田雅規

(主 催 等) 第 18 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) 兵庫県神戸市

(開 催 年 月) 平成 31(2019)年 3 月

(概要)

臨床症例に即した下歯槽神経損傷モデルとして、ラット下顎第一臼歯を抜歯後、即時に抜歯窩より虫ピンを埋入してモデルを作製し、シュワン細胞移植の効果を検討した。

担当部分：坐骨神経からシュワン細胞の単離・培養・凍結、シュワン細胞移植

13. 「シングルセル分散法で培養したヒト iPS 細胞から上皮細胞への分化誘導法の確立」(口頭発表)

共同発表者：普天間拓、鳥海拓、本田雅規

(主 催 等) 第 61 回歯科基礎医学会学術大会

(開 催 場 所) 東京都

(開 催 年 月) 令和元(2019)年 10 月

(概要)

シングルセルで培養したヒト iPS 細胞を上皮誘導した細胞の特性を解析した。

担当部分：蛍光細胞免疫染色指導、データ解析

14. 「緑色蛍光タンパク質 ZsGreen1 で標識したヒト歯髄細胞の特性」(口頭発表)

共同発表者：鳥海拓、本田雅規

(主 催 等) 第 62 回 NPO 法人日本口腔科学会中部地方部会学術集会

(開 催 場 所) 愛知県名古屋

(開 催 年 月) 令和元(2019)年 10 月

(概要)

細胞標識のために緑色蛍光タンパク質 (ZsGreen1 ; ZG) を安定発現するヒト歯髄細胞を作製し、その細胞特性を解析した。In vitro 骨芽細胞への誘導実験では、誘導 14 日目でアリザリンレッド陽性を認め、かつ緑色蛍光を維持した。また、ZG 歯髄細胞をマウスの背部皮下へ移植し、14 日後に摘出した移植体中でも緑色蛍光を発現する細胞を確認した。

担当部分：全実験、データ解析

15. 「Revitalization のマウス実験モデルの作製について」(口頭発表)

共同発表者：大桑雄太、鳥海拓、田中翔、本田雅規

(主 催 等) 第 19 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) オンライン開催

(開 催 年 月) 令和 2(2020)年 5 月

(概要)

歯髄および硬組織の再生を期待する治療法の一つであるリバイタリゼーションの研究用として、マウスの下顎第一臼歯の歯髄を除去後に根尖を破壊した実験モデルを作製し、硬組織の再生を検討した。

担当部分：動物実験モデル作製支援

16. 「ヒト iPS 細胞の上皮細胞誘導時における上皮細胞マーカーの発現解析」(口頭発表)

共同発表者：普天間拓、鳥海拓、本田雅規

(主 催 等) 第 19 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) オンライン開催

(開 催 年 月) 令和 2(2020)年 5 月

(概要)

ヒト iPS 細胞から上皮細胞への誘導を試み、上皮細胞マーカーの変動を検討したところ、上皮の組織形成に関わる遺伝子発現に類似したパターンが 28 日間の誘導で示された。

担当部分：ウエスタンブロットング指導、データ解析

17. 「異所性に移植した歯の歯髄における血管の再構築」(口頭発表)

共同発表者：田中翔、鳥海拓、大桑雄太、伊藤発明、栗田賢一、本田雅規

(主 催 等) 第 19 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) オンライン開催

(開 催 年 月) 令和 2(2020)年 5 月

(概要)

歯根完成歯においても再生歯内療法が可能かどうかを検討するために動物実験モデルを作製した。GFP マウスおよび野生型の C57BL6 マウスを使用し、ドナーおよび宿主を入れ替えて歯の移植実験をおこなったところ、宿主側の細胞が歯髄内の血管を新生する可能性が示唆された。

担当部分：蛍光免疫染色指導、データ解析

18. 「骨再生におけるフジボーングラフトに播種する歯髄由来間葉系細胞の細胞数の探索 第一報」(口頭発表)

共同発表者：秋山泰範、鳥海拓、井村英人、伊東雅哲、平塚崇浩、夏目長門、本田雅規

(主 催 等) 第 19 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) オンライン開催

(開 催 年 月) 令和 2(2020)年 5 月

(概要)

骨補填材であるフジボーングラフト (FBG) へ播種する最適な細胞数を探索するために、異なる細胞数の乳歯歯髄細胞と FBG の複合体をラット頭蓋骨へ移植し、骨組織の再生にて検討した。

担当部分：乳歯歯髄から細胞の分離、培養、データ解析

19. 「ヒト脂肪組織由来幹細胞における増殖能と細胞周期関連遺伝子発現の検討」(誌上发表)

共同発表者：鳥海拓、増渕洋祐、大桑雄太、飛田護邦、本田雅規

(主 催 等) 日本解剖学会第 80 回中部支部学術集会

(開 催 場 所) 誌上開催

(開 催 年 月) 令和 2(2020)年 10 月

(概要)

患者 4 名の脂肪吸引手術で余剰となった吸引皮下脂肪から脂肪組織幹細胞を単離し、増殖能の高い群と低い群にわけ、細胞周期に関連して発現する遺伝子を示した。

担当部分：全実験、データ解析

20. 「細胞周期遺伝子の発現がヒト脂肪組織幹細胞の増殖に及ぼす影響」(ポスター発表)

共同発表者：鳥海拓、増渕洋祐、大桑雄太、飛田護邦、本田雅規

(主 催 等) 第 20 回日本再生医療学会総会

(開 催 場 所) オンライン開催

(開 催 年 月) 令和 3(2021)年 3 月

(概要)

脂肪組織幹細胞(ASCs)を利用した非臨床研究において、ASCs はドナー間で細胞増殖に差を認めたため、細胞周期遺伝子の発現を解析し、増殖能との関連性を検討した。増殖能の低い群より高い群に共通して発現する遺伝子(2.5 倍以上)は、M 期に関連する 5 種類であることを示した。 担当部分：全実験、データ解析

主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・第121回日本解剖学会総会・全国学術集会 研究集会・懇話会「歯の発生の会」における講演 テーマ：次世代を担う若手研究者の最新の歯の発生・再生研究 演題名：ヒトiPS細胞からの歯の再生 会場：ビックパレットふくしま（福島県郡山市）（平成28(2016)年3月）
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> ・日本大学歯学部同窓会 評議員 （平成28(2016)年3月～現在に至る） ・日本口腔外科学会 会員 （平成13(2001)年4月～現在に至る） ・日本再生医療学会 会員 （平成23(2011)年2月～現在に至る） ・歯科基礎医学会 会員 （平成23(2011)年8月～現在に至る） ・日本解剖学会 会員 （平成23(2011)年11月～現在に至る） ・硬組織再生生物学会 会員 （平成28(2016)年6月～現在に至る） ・愛知学院大学歯学会 会員 （平成29(2017)年4月～現在に至る） ・日本組織培養学会 会員 （平成29(2017)年4月～現在に至る） ・歯科薬物療法学会 会員 （平成29(2017)年4月～令和3(2021)年4月）
受賞歴	<p>第37回日本歯科薬物療法学会学術大会 優秀発表賞受賞 演題名：iPS細胞由来神経堤細胞を利用した下歯槽神経の再生 （平成29(2017)年6月）</p>

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 ・骨・関節障害系理学療法Ⅰ、骨・関節障害系理学療法Ⅱ ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・理学療法総合演習 ・理学療法卒業研究 ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ
専 門 分 野	■ リハビリテーションバイオメカニクス ■ 整形外科リハビリテーション ■ スポーツリハビリテーション (資格) 運動器専門理学療法士 認定理学療法士 (スポーツ理学療法)
最 終 学 歴	独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 学士 (保健衛生学) (平成 27(2015)年 4 月) 久留米大学大学院 医学研究科 医科学専攻 リハビリテーションバイオメカニクス学 修士 (医科学) (平成 27(2015)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 久留米大学大学院 医学研究科 医学専攻 整形外科学講座 博士 (医科学) (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)
学 位	学士 (保健衛生学) : 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 修士 (医科学) : 久留米大学大学院 博士 (医学) : 久留米大学大学院
職 歴	三菱重工業株式会社 (平成 10(1998)年 4 月～平成 12(2000)年 12 月) 医療法人清和会 介護老人保健施設 シャンティ (平成 14(2002)年 5 月～平成 18(2006)年 1 月) 医療法人 田原整形外科医院 (平成 18(2006)年 3 月～平成 23(2011)年 3 月) 社会福祉法人 恩賜財団 済生会八幡総合病院 (平成 23(2011)年 4 月～平成 30(2018)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 (骨・関節理学療法、理学療法ゼミナール、理学療法卒業研究、理学療法総合演習、臨床実習 担当) (平成 30(2018)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	理学療法士養成校の臨床実習生指導 (平成 18(2006)年～平成 29(2017)年) 日本理学療法士協会診療ガイドラインの作成 システムティック・レビュー班 班長 (平成 28(2016)年 12 月～現在に至る)
主な研究活動	【著書】 1. 肩関節マネジメント メジカルビュー社 (平成 31/令和元(2019)年) 【学術論文】 1. 「少年野球選手のボール把持と上肢帯可動域の関係」 九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 22 巻 Page76-81(2010.06) 河上淳一、宮崎優、曾川紗帆 尾池拓也 光野武志 宮菌彩香 桑園博明 山口雄基 中村雅隆 坂田辰廣 田原敬士 2. 「肩関節評価スコアと ADL 機能の関係性」 理学療法福岡 24 号 Page85-88 曾川紗帆 河上淳一 宮崎優 尾池拓也 光野武志 中村雅隆 田原敬士 3. 「少年期野球選手の投球障害発生要因の検討」 九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 23 巻 Page34-37(2011.06) 河上淳一 尾池拓也 宮崎優 曾川紗帆 宮菌彩香 桑園博明 嶋田早希子 光野武志 中村雅隆 田原敬士

<p>4. 「女子柔道選手における腰痛と体幹筋力との関係について 2 Case Study」 九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 23 巻 Page102-06(2011.06) 中村雅隆 <u>河上淳一</u> 光野武志 曾川紗帆 目良寛巳 小原雄二 藤本あずさ 蔵本千帆 坂田辰廣 伊藤奈摘 田原敬士</p>
<p>5. 「少年期野球選手に対するストレッチング指導効果」 九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 23 巻 Page38-42(2011.06) 曾川紗帆 <u>河上淳一</u> 宮崎優 尾池拓也 宮菌彩香 光野武志 中村雅隆 坂田辰廣 田原敬士</p>
<p>6. 「連続投球時のボール把持違いによる肩関節筋力変化」 済生会八幡総合病院医学雑誌 2 巻 Page55-60(2011.12) <u>河上淳一</u> 日野敏明 森口晃一 藤戸郁久 曾川紗帆 宮崎優 尾池拓也 永田良平 宮菌彩香 桑園博明 山口雄基 中村雅隆 田原敬士</p>
<p>7. 「腱板断裂術後の済生会八幡式入浴用肩関節装具開発について」 済生会八幡総合病院医学雑誌 3 巻 Page40-43(2012.12) <u>河上淳一</u> 藤戸郁久 曾川紗帆 森口晃一 宮崎かなえ 日野敏明 青木美保 進訓央 原口和史</p>
<p>8. 「膝前十字靭帯再建術後症例のスポーツ復帰状況と身体運動機能との関係」 九州・山口スポーツ医・科学研究会誌 25 巻 Page83-85(2013.08) 森口晃一 <u>河上淳一</u> 藤戸郁久 曾川紗帆 中西純菜 田中彩 日野敏明 原口和史 松浦恒明 鈴木裕也</p>
<p>9. 「済生会八幡総合病院式肩関節入浴装具の満足度調査と装具改良について」 理学療法福岡 28 号 Page65-69(2015.03) <u>河上淳一</u> 藤戸郁久 松永紗帆 中西純菜 田中彩 森口晃一 日野敏明 松尾福美 宮澤忍 谷口秀将 進訓央 松浦恒明</p>
<p>10. 「触診を用いた上腕骨後捻角測定信頼性について」 理学療法福岡 29 号 Page27-31(2016.03) <u>河上淳一</u> 松浦恒明 後藤昌史 藤戸郁久 松永紗帆 進訓央 森口晃一 日野敏明 中西純菜 田中彩</p>
<p>11. 「Cutoff value of Japanese Orthopaedic Association shoulder score in patients with rotator cuff repair: Based on the University of California at Los Angeles shoulder score」 Journal of Orthopaedic Science. 2017;22(3):438-41. Imai Takaki, Gotoh Masafumi, Tokunaga Tsuyoshi, <u>Kawakami Junichi</u>, Mitsui Yasuhiro, Fukuda Keiji, Ogino Misa, Okawa Takahiro, Shiba Naoto</p>
<p>12. 「Cut-off values of the Japanese Orthopaedic Association score corresponding to Constant scores for evaluating outcomes in rotator cuff tear.」 Journal of Orthopaedic Surgery. 2017;25(2):1-7 <u>Junichi Kawakami</u>, Masafumi Gotoh, Koumei Matsuura, Kunichika Shin, Ikuhisa Fujito, Aya Tanaka, Saho Matsunaga, Takaki Imai, Takashi Nagamatsu, Kazuya Madokoro, Naoto Shiba</p>
<p>13. 「Elbow Extension Test における棘下筋の影響」 肩関節. 2016;40(3):817-20. 永松隆 甲斐義浩 後藤昌史 政所和也 <u>河上淳一</u> 志波直人</p>
<p>14. 「性差による肩甲骨上方回旋運動への影響：スプライン関数解析」 肩関節. 2016;40(3):809-12. 政所和也 甲斐義浩 後藤昌史 永松隆 <u>河上淳一</u> 志波直人</p>
<p>15. 「肩関節周囲炎患者の夜間痛について-夜間痛出現肢位の調査と関節可動域の比較検討-」 理学療法福岡 30 号 Page73-76(2017.03) 鳥山昌起 田原敬士 光野武史 中村雅隆 目良寛巳 尾池拓也 井倉俊平 <u>河上淳一</u></p>

16. 「歩行練習後に低血圧をきたした大腿骨頸部骨折術後症例」
理学療法福岡 31 号 Page101-107(2018.03)
鐵見竜司 河上淳一 藤戸郁久 松永紗帆 古賀敬也 日野敏明 野中麻奈美
末松達也 副島悠 松浦恒明
17. 「Usefulness of Shoulder36 in rotator cuff tears: Comparison with Simple Shoulder Test.」
Journal of Orthopaedic Surgery. 2018;27(1):1-6
Junichi Kawakami, Masafumi Gotoh, Koumei Matsuura, Kunichika Shin,
Ikuhisa Fujito, Aya Tanaka, Saho Matsunaga, Takaki Imai, Takashi Nagamatsu,
Karasuyama Masaki, Ohta Toshiaki, Kazuya Madokoro, Naoto Shiba
18. 「Influence of Brassiere Wearing on Shoulder Kinematics.」
Progress in Rehabilitation Medicine. 2018;(3):1-6.
Takashi Nagamatsu, Yoshihiro Kai, Masafumi Gotoh, Kazuya Madokoro,
Takaki Imai, Junichi Kawakami, Naoto Shiba
19. 「Factors Affecting Return to Work in Patients Undergoing Arthroscopic Rotator Cuff Repair」
Progress in Rehabilitation Medicine. 2018;(4):1-8.
Takaki Imai, Masafumi Gotoh, Keita Hagie, Keiji Fukuda, Misa Ogino, Kazuya Madokoro,
Takashi Nagamatsu, Junichi Kawakami, Toshiyuki Ohta, Masaki Karasuyama, Naoto Shiba
20. 「学会発表のポイント-抄録の書き方-」
理学療法福岡 32 号 Page69-71(2019.03)
山内康太 河上淳一
21. 「脳梗塞発症後に軽度の運動麻痺と著明に歩行能力やバランス機能が低下した症例
：自転車エルゴメーターの回転数に着目した AB デザインによる介入」
理学療法福岡 32 号 Page117-120(2019.03)
藤達砂耶、河上淳一、古賀敬也、野中麻奈美、藤戸郁久、松永紗帆、山内康太、鳥山昌起、日野敏明
22. 「肩関節疾患患者の夜間痛に対する就寝指導パンフレットの満足度調査
-CS 分析を用いた検討」
理学療法福岡 32 号 Page82-86(2019.03)
鳥山昌起、田原敬士、光野武志、中村雅隆、尾池拓也、河上淳一
23. 「鏡視下腱板修復術後再断裂例における患者満足度と臨床成績の関係」
肩関節 43(3) page822 - 825 (2019.11)
原田伸哉, 石谷栄一, 後藤昌史, 河上淳一, 鳥山昌起, 今井孝樹, 志波直人
24. 「Clinical results of conservative management in patients with full-thickness rotator cuff tear: a meta-analysis」
Clinics in Shoulder and Elbow 2020; 23(2): 86-93.
Masaki Karasuyama, Masafumi Gotoh, Keiji Tahara, Junichi Kawakami, Kazuya Madokoro,
Takashi Nagamatsu, Takaki Imai, Nobuya Harada, Yu Kudo, Naoto Shiba
25. 「学会発表のポイント-プレゼンテーション-」
理学療法福岡 33 号 Page59-60(2020.03)
河上淳一, 山内康太
26. 「Combination of risk factors affecting retear after arthroscopic rotator cuff repair
: a decision tree analysis」
Journal of Shoulder and Elbow Surgery. 2020; 09(June): In Press
Nobuya Harada, Masafumi Gotoh, Eiichi Ishitani, Tatsuyuki Kakuma, Yuka Yano, Daisuke Tatara,
Junichi Kawakami, Takaki Imai, Masaki Karasuyama, Yu Kudoh, Naoto Shiba.
27. 「腱板断裂患者に対する患者立脚評価を用いた治療方針の予測」
理学療法学 47(6) 587 - 592 2020 年 12 月
河上淳一, 後藤昌史, 松浦恒明, 寄谷彩, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 鳥山昌起, 原田伸哉,
工藤憂, 志波直人.

	<p>28. 「整形外科学に対する学修支援の取り組み」 九州栄養福祉大学研究紀要 16号 Page43-50(2019.12) 河上淳一, 烏山昌起, 井元淳, 石橋敏郎, 四元孝道, 佐野幹剛, 室井廣大, 高橋精一郎.</p> <p>29. 「国家試験揭示による学修支援の実践」 九州栄養福祉大学研究紀要 16号 Page51-56(2019.12) 早川智之, 河上淳一, 烏山昌起.</p> <p>30. 「肩関節疾患患者の睡眠障害について: システマティック・レビューによる検討」 理学療法福岡 2020 In Press 烏山昌起, 河上淳一, 尾池拓也</p> <p>31. 「遠隔授業に対するリメディアル教育・学修支援委員の取り組み」 九州栄養福祉大学研究紀要 17号 Page9-15 (2020.12) 河上淳一, 烏山昌起, 神崎良子, 吉岡奈々, 四元孝道, 佐野幹剛, 室井廣大, 石橋敏郎</p> <p>32. 「生体力学情報に基づく骨関節障害系理学療法教育に関して」 九州栄養福祉大学研究紀要 17号 Page1-7(2020.12) 河上淳一, 烏山昌起</p>
	<p>【学会発表】(筆頭演者)</p> <p>1. 「野球肘障害の理学療法に対する一考察」 河上淳一, 宮崎優, 光野武志, 曾川紗帆, 中村雅隆, 田原敬士 〈主催〉九州理学療法作業療法合同学会 〈開催場所〉大分県 〈開催年月日〉平成 21(2009)年 10 月</p> <p>2. 「少年期野球選手の投球障害発生要因検討 ボール把持項目を加えた多重ロジスティック回帰分析を用いて」 河上淳一, 宮崎優, 光野武志, 尾池拓也, 曾川紗帆, 宮菫彩香, 桑園博明, 嶋田早希子, 中村雅隆, 田原敬士 〈主催〉第 45 回 日本理学療法士協会学術大会 〈開催場所〉岐阜県 〈開催年月日〉平成 22(2010)年 5 月</p> <p>3. 「腱板断裂術後の済生会八幡式入浴用装具開発について」 河上淳一, 藤戸郁久, 森口晃一, 宮崎かなえ, 日野敏明, 曾川紗帆, 中村雅隆, 宮菫彩香, 工藤僚太, 烏山昌起, 宮崎優, 青木美保, 進訓央, 松浦恒明, 原口和史 〈主催〉第 47 回 日本理学療法士協会学術大会 〈開催場所〉兵庫県 〈開催年月日〉平成 24(2012)年 5 月</p> <p>4. 「Horizontal Flexion Test の意義とは何か?」 河上淳一, 宮崎優, 尾池拓也, 中村雅隆, 藤戸郁久, 森口晃一, 日野敏明, 松浦恒明, 進 訓央, 原口和史, 小林繁 〈主催〉第 4 回 JOSKAS 〈開催場所〉沖縄 〈開催年月日〉平成 24(2012)年 5 月</p> <p>5. 「Is the acromiohumeral distance affected by the shoulder position under the abduction orthosis?」 Junichi Kawakami, Saho Sogawa, Ikuhisa Fujito, Kouichi Moriguchi, Toshiaki Hino, Takuya Oike, Masataka Nakamura, Masaru Miyazaki, Kunichika Shin, Koumei Matsuura, Kazushi Haraguchi 〈主催〉12th International Congress of Shoulder and Elbow Surgery 〈開催場所〉愛知県 〈開催年月日〉平成 25(2013)年 4 月</p>

	<p>6. 「上腕骨近位端骨折治療後に遅発性後方脱臼を呈した症例」 <u>河上淳一</u>, 松浦恒明 〈主催〉第22回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成25(2013)年2月</p>
	<p>7. 「済生会八幡総合病院式肩関節入浴装具の満足度調査と装具改良について」 <u>河上淳一</u>, 藤戸郁久, 松永紗帆, 森口晃一, 日野敏明, 宮澤忍, 松浦恒明 〈主催〉第23回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成26(2014)年2月</p>
	<p>8. 「触診を用いた上腕骨後捻角推定の信頼性について」 <u>河上淳一</u>, 藤戸郁久, 松永紗帆, 森口晃一, 日野敏明, 進訓央, 松浦恒明 〈主催〉第24回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成27(2015)年2月</p>
	<p>9. 「腱板断モデルにおける肩関節シミュレーションの筋力特性」 <u>河上淳一</u>, 田川善彦, 後藤昌史, 今井孝樹, 永松隆, 政所和也, 松浦恒明, 大川孝浩, 志波直人 〈主催〉第25回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成28(2016)年2月</p>
	<p>10. 「腱板断裂術後6ヵ月におけるQOLとADL満足度の関係」 <u>河上淳一</u>, 藤戸郁久, 松永紗帆, 寄谷彩, 進訓央, 松浦恒明, 日野敏明 〈主催〉第26回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成29(2017)年2月</p>
	<p>11. 「Relationship between Shoulder 36 and Simple Shoulder Test」 <u>Junichi Kawakami</u>, Masafumi Gotoh, Koumei Matsuura, Kunichika Shin, Ikuhisa Fujito, Saho Matsunaga, Toshiaki Hino, Takaki Imai, Takashi Nagamatsu, Kazuya Madokoro, Naoto Shiba, in Patients with Rotator Cuff Tear 〈主催〉第43回 日本肩関節学会 〈開催場所〉広島県 〈開催年月日〉平成29(2017)年10月</p>
	<p>12. 「Predictive factor for surgical intervention in patients with cuff tear: Decision tree analysis」 <u>Junichi Kawakami</u>, Masafumi Gotoh, Koumei Matsuura, Kunichika Shin, Ikuhisa Fujito, Saho Matsunaga, Takaki Imai, Takashi Nagamatsu, Kazuya Madokoro, Masaki Karasuyama, Naoto Shiba 〈主催〉第44回 日本肩関節学会 〈開催場所〉東京都 〈開催年月日〉平成30(2018)年10月</p>
	<p>13. 「鏡視下腱板断裂修復術後の外転装具除去時の家庭生活に対する不安の検討」 <u>河上淳一</u>, 松尾福美, 藤戸郁久, 松永紗帆, 日野敏明, 鐵見竜司, 古賀敬也, 野中麻奈美, 藤達砂耶, 鳥山昌起, 進訓央, 松浦恒明 〈主催〉第6回 日本支援工理学療法学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉平成30(2018)年9月</p>

	<p>14. 「腱板断裂症例における保存療法予測因子 決定木分析による解析」 <u>河上淳一</u>, 後藤昌史, 松浦恒明, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 烏山昌起, 原田伸哉, 工藤憂, 志波直人 〈主催〉第46回 日本肩関節学会 〈開催場所〉長野県 〈開催年月日〉令和元(2019)年10月</p> <p>15. 「肩関節挙上早期の肩関節周囲筋が上腕骨の上方化に与える力 : 正常と腱板機能不全モデルの比較」 <u>河上淳一</u>, 後藤昌史, 松浦恒明, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 烏山昌起, 原田伸哉, 工藤憂, 志波直人 〈主催〉第46回 日本臨床バイオメカニクス学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉令和元(2019)年11月</p> <p>16. 「肩関節偽性麻痺を非偽性麻痺にする力とは何か? Computer Simulation を用いた検討」 <u>河上淳一</u>, 田川善彦, 後藤昌史, 政所和也, 永松隆, 白石大地, 今井孝樹, 烏山昌起, 原田伸哉, 工藤憂, 志波直人 〈主催〉第29回 福岡県理学療法士学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉令和2(2020)年2月</p> <p>17. 「肩関節挙上時に上腕骨を上方偏位させる筋と力」 <u>河上淳一</u>, 田川善彦 〈主催〉第47回 日本臨床バイオメカニクス学会 〈開催場所〉新潟県 ハイブリッド開催 〈開催年月日〉令和2(2020)年11月</p> <p>18. 「腱板断裂における肩関節挙上制限を改善する運動療法とは何か? Computer Simulation を用いた検討」 <u>河上淳一</u>, 田川善彦, 後藤昌史, 政所和也, 永松隆, 白石大地, 今井孝樹, 原田伸哉, 工藤憂, 志波直人 〈主催〉第45回 日本運動療法学会 〈開催場所〉福岡県 〈開催年月日〉令和3(2021)年1月</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>〔障害予防活動〕 ・NPO 法人スマート 少年野球選手の障害予防活動 (平成21(2009)年6月～平成25(2013)年3月)</p>
	<p>〔協会主催講師〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本理学療法士協会主催 講習会講師 (平成27(2015)年8月) ・日本理学療法士協会主催 講習会講師 (平成28(2016)年8月) ・日本理学療法士協会主催 講習会講師 (平成29(2017)年8月) ・日本理学療法士協会主催 講習会講師 (令和元(2019)年7月) ・日本理学療法士協会主催 臨床実習指導者講習会 (令和元(2019)年8.11.12月) ・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成28(2016)年10月) ・福岡県作業療法士会主催 講習会講師 (平成25(2013)年7月) ・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成24(2012)年9月) ・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成28(2016)年2月) ・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成29(2017)年10月) ・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成30(2018)年12月) ・大韓物理治療士協会慶尚南道会(韓国) 研修会講師 (令和元(2019)年4月)
	<p>〔その他研修会講師〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北九州肩関節研究会 (平成23(2011)年) ・北九州臨床リハビリテーション勉強会 (平成26(2014)年)

	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市民カレッジ講師 (平成 30(2018)年) ・北九州ハンドセラピー研究会 (平成 27(2015)年) ・柳川リハビリテーション学院同窓会研修会 (平成 30(2018)年) ・北九州南部肩関節地域連携勉強会 (平成 30(2018)年) ・八葉カフェ (平成 31 年／令和元(2019)年)
	〔座長〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会 北九州 2 地区研修会 (平成 20(2008)年-平成 28 年、全 8 回) ・北九州肩関節研究会 (平成 24(2012)年、平成 28(2016)年) ・日本肩関節学会・肩の運動機能研究会 (平成 26(2014)年-平成 30(2018)年、全 5 回) ・福岡県理学療法士会 北九州支部症例報告会 (平成 30(2018)年) ・福岡県理学療法士学会 (平成 30(2018)年) ・日本運動器理学療法学会 (平成 31 年／令和元(2019)年)
	〔パネルディスカッション〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本肩関節学会 (平成 28(2016)年)
	〔査読〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本予防理学療法学会 (平成 30(2018)年) ・日本運動器理学療法学会 (平成 31 年／令和元(2019)年) ・福岡県理学療法士学会 (平成 30(2018)年) ・理学療法学福岡 (平成 31 年／令和元(2019)年)
所 属 学 会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士学会 会員 (平成 19(2007)年 4 月～現在に至る) 日本肩関節学会 準会員 (平成 22(2010)年 4 月～現在に至る) 日本臨床バイオメカニクス学会 会員 (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る) 日本運動器看護学会 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)
	〔役職〕
	<ul style="list-style-type: none"> 福岡県理学療法士会 北九州 2 地区 学術委員 (平成 19(2007)年 6 月～平成 29(2017)年 6 月) 福岡県理学療法士会 北九州 2 地区 学術責任者 (平成 27(2015)年 6 月～平成 29(2017)年 6 月) 福岡県理学療法士会 学術教育研修部 部長 (平成 29(2017)年 6 月～現在に至る) 北九州肩関節研究会 世話人 (平成 23(2011)年 4 月～現在に至る) 日本理学療法士協会 理学療法診療ガイドライン 肩関節障害 システムティックレビュー班 班長 (平成 28(2016)年 12 月～現在に至る)
	〔共同研究・競争的資金等の研究課題〕
	<ul style="list-style-type: none"> 肩関節挙上時の肩甲上腕関節に対する剪断 力を及ぼす筋の解明:正常肩とインピンジメントモデルでの比較 (私立医科大学理学療法研究会) (令和 2(2020)年) 肩腱板断裂後患者の修復腱にかかるストレスの解明 :バイオメカニクスの視点を用いた看護師の援助方法の検討 (日本運動器看護学会) (平成 31 年／令和元(2019)年)
受 賞 歴	<ul style="list-style-type: none"> 第 23 回 福岡県理学療法士学会 最優秀賞 (平成 26(2014)年 3 月) 第 24 回 福岡県理学療法士学会 最優秀賞 (平成 27(2015)年 3 月) 筑後整形外科・リハビリテーション研究会 研究助成 優秀賞 (平成 28(2016)年 11 月) 第 29 回 福岡県理学療法士学会 優秀賞 (平成 31(2019)年 2 月) 第 23 回 福岡県理学療法士学会 優秀賞 (共同演者) (平成 31(2019)年 2 月)

所属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担当科目	[リハビリテーション学部 理学療法学科] ・骨・関節障害系理学療法Ⅱ ・スポーツ系理学療法 ・障がい者スポーツ ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ
専門分野	■ 整形外科リハビリテーション ■ スポーツ系理学療法分野 ■ 障がい者スポーツ (資格) 認定理学療法士 (運動器) 初級障がい者スポーツ指導員
最終学歴	久留米大学大学院 医学研究科 医科学専攻 リハビリテーションバイオメカニクス学 修士 (医科学) (平成 29(2017)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 久留米大学大学院 医学研究科 医学専攻 整形外科科学講座 博士課程 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)
学位	修士 (医科学) : 久留米大学大学院
職歴	医療法人 南川整形外科病院 リハビリテーション科 助手 (平成 20(2008)年 4 月～平成 22(2010)年 10 月) 医療法人 田原整形外科医院 リハビリテーション科 理学療法士 (平成 23(2011)年 3 月～平成 31(2019)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 (平成 31(2019)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	・理学療法士養成校の臨床実習生の教育指導 (平成 25(2013)年～平成 30(2018)年) ・日本理学療法士協会診療ガイドライン作成 システマティック・レビュー班員 (平成 28(2016)年 12 月～現在に至る)
主な研究活動	【著書】 ○『肩関節マネジメント メジカルビュー社』 (平成 31/令和元(2019)年)
	【学術論文】
	1. 「肩関節周囲炎患者の夜間痛について-夜間痛出現肢位の調査と関節可動域の比較検討」 理学療法福岡 30 号 Page73-76 鳥山昌起, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 目良寛巳, 尾池拓也, 井倉俊平, 河上淳一
	2. 「Usefulness of Shoulder36 in rotator cuff tears: Comparison with Simple Shoulder Test.」 Journal of Orthopaedic Surgery. 2018;27(1):1-6 Junichi Kawakami, Masafumi Gotoh, Koumei Matsuura, Kunichika Shin, Ikuhisa Fujito, Aya Tanaka, Saho Matsunaga, Takaki Imai, Takashi Nagamatsu, <u>Karasuyama Masaki</u> , Ohota Toshiaki, Kazuya Madokoro, Naoto Shiba
	3. 「Factors Affecting Return to Work in Patients Undergoing Arthroscopic Rotator Cuff Repair」 Progress in Rehabilitation Medicine. 2018;(4):1-8. Takaki Imai, Masafumi Gotoh, Keita Hagie, Keiji Fukuda, Misa Ogino, Kazuya Madokoro, Takashi Nagamatsu, Junichi Kawakami, Toshiyuki Ohota, <u>Masaki Karasuyama</u> , Naoto Shiba

	<p>4. 「脳梗塞発症後に軽度の運動麻痺と著明に歩行能力やバランス機能が低下した症例：自転車エルゴメーターの回転数に着目した AB デザインによる介入」 理学療法福岡 32 号 Page117-120(2019.06) 藤達砂耶, 河上淳一, 古賀敬也, 野中麻奈美, 藤戸郁久, 松永紗帆, 山内康太 烏山昌起, 日野敏明</p>
	<p>5. 「肩関節疾患患者の夜間痛に対する就寝指導パンフレットの満足度調査-CS 分析を用いた検討」 理学療法福岡 31 号 Page101-107(2019.06) 烏山昌起, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 尾池拓也, 河上淳一</p>
	<p>6. 「鏡視下腱板修復術後再断裂例における患者満足度と臨床成績の関係」 肩関節 43(3) page822 - 825 (2019.11) 原田伸哉, 石谷栄一, 後藤昌史, 河上淳一, 烏山昌起, 今井孝樹, 志波直人</p>
	<p>7. 「Clinical results of conservative management in patients with full-thickness rotator cuff tear: a meta-analysis」 Clinics in Shoulder and Elbow 2020; 23(2): 86-93. <u>Masaki Karasuyama</u>, Masafumi Gotoh, Keiji Tahara, Junichi Kawakami, Kazuya Madokoro, Takashi Nagamatsu, Takaki Imai, Nobuya Harada, Yu Kudo, Naoto Shiba</p>
	<p>8. 「Combination of risk factors affecting retear after arthroscopic rotator cuff repair : a decision tree analysis」 Journal of Shoulder and Elbow Surgery. 2020; 09(June): In Press Nobuya Harada, Masafumi Gotoh, Eiichi Ishitani, Tatsuyuki Kakuma, Yuka Yano, Daisuke Tatara, Junichi Kawakami, Takaki Imai, <u>Masaki Karasuyama</u>, Yu Kudoh, Naoto Shiba.</p>
	<p>9. 「腱板断裂患者に対する患者立脚評価を用いた治療方針の予測」 理学療法学 2020 In Press 河上淳一, 後藤昌史, 松浦恒明, 寄谷彩, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 烏山昌起, 原田伸哉, 工藤憂, 志波直人</p>
	<p>10. 「整形外科に対する学修支援の取り組み」 九州栄養福祉大学研究紀要 16 号 Page43-50(2019.12) 河上淳一, 烏山昌起, 井元淳, 石橋敏郎, 四元孝道, 佐野幹剛, 室井廣大, 高橋精一郎.</p>
	<p>11. 「国家試験揭示による学修支援の実践」 九州栄養福祉大学研究紀要 16 号 Page51-56(2019.12) 早川智之, 河上淳一, 烏山昌起.</p>
	<p>12. 「肩関節疾患患者の睡眠障害について: システムティック・レビューによる検討」 理学療法福岡 34 号 Page90-95(2021.03) 烏山昌起, 河上淳一, 尾池拓也</p>
	<p>13. 「当院での疲労骨折患者における体格と体組成及び月経状態に関する実態調査」 理学療法福岡 33 号 Page88-93(2020.03) 目良寛巳, 光野武志, 中村雅隆, 鈴木太二, 嶋田早希子, 桑園博明, 尾池拓也, 山口雄基, 烏山昌起, 井倉俊平, 田原敬士</p>
	<p>14. 「パラスポーツの見学が大学学生の意識に及ぼす影響について」 九州栄養福祉大学研究紀要 17 号 Page17-24(2020.12) 烏山昌起, 橋元隆, 室井由起子, 室井廣大, 大下義邦 (国際スポーツ大会推進室 大規模大会誘致推進担当係長)</p>
	<p>15. 「肩関節周囲炎の夜間痛に対するパンフレットを用いた就寝指導の効果」 日本運動器看護学会 16 号 Page31-36(2021.02) 烏山昌起, 河上淳一, 松尾福美</p>

	<p>【学会発表】(筆頭演者)</p> <p>1.「右肩腱板断裂を呈した症例～安静時・夜間痛に着目して～」 <u>鳥山昌起</u>, 田原敬士, 光野武志 (主催)第22回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成25(2013)年2月</p> <p>2.「外傷後に挙上困難となった右肩陳旧性腱板断裂症例の一考察」 <u>鳥山昌起</u>, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 宮菌彩香, 尾池拓也 (主催)第23回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成26(2014)年3月</p> <p>3.「棒を用いた肩関節外旋ストレッチの即時効果について」 <u>鳥山昌起</u>, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 宮菌彩香, 尾池拓也, 井倉俊平, 工藤 僚太 (主催)第24回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成27(2015)年2月</p> <p>4.「肩関節周囲炎患者の夜間痛について～夜間痛出現肢位の調査と肢位別での比較検討」 <u>鳥山昌起</u>, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 目良寛巳, 尾池拓也, 井倉俊平, 河上淳一 (主催)第25回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成28(2016)年2月</p> <p>5.「夜間痛に対する就寝指導パンフレットの満足度調査」 <u>鳥山昌起</u>, 田原敬士, 光野武志, 中村雅隆, 尾池拓也, 井倉俊平, 河上淳一 (主催)第26回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成29(2017)年2月</p> <p>6.「腱板完全断裂患者における保存的治療の有効性 Systematic review と Meta-analysis による検討」 <u>鳥山昌起</u>, 後藤昌史, 田原敬士, 河上淳一, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 光野武志, 太田利亨, 原田伸哉, 工藤憂, 光野武志, 尾池拓也, 志波直人 (主催)第28回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)平成31(2019)年2月</p> <p>7.「腱板完全断裂患者における保存的治療の有効性：メタ解析による検討」 <u>鳥山昌起</u>, 後藤昌史, 田原敬士, 河上淳一, 政所和也, 永松隆, 今井孝樹, 光野武志, 太田利亨, 原田伸哉, 工藤憂, 光野武志, 尾池拓也, 志波直人 (主催)第92回 日本整形外科学会学術総会 (開催場所) 神奈川県 (開催年月日)令和元(2019)年5月</p> <p>8.「肩関節疾患に伴う睡眠障害について～システムティック・レビューによる検討」 <u>鳥山昌起</u>, 河上淳一, 尾池拓也 (主催)第29回 福岡県理学療法士学会 (開催場所) 福岡県 (開催年月日)令和2(2020)年2月</p> <p>その他 研究会発表 筆頭演者 12回</p>
主な社会活動	<p>【協会主催講師】</p> <p>・福岡県理学療法士会主催 講習会講師 (平成30(2018)年10月)</p>
	<p>【その他研修会講師】</p> <p>・北九州肩関節研究会 (平成25(2013)年7月) ・北九州肩関節研究会 (平成30(2018)年4月) ・北九州南部肩関節地域連携勉強会 (平成30(2018)年11月) ・八薬カフェ</p>

	【座長】
	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会 北九州2地区研修会 (平成30(2018)年4月) ・福岡県理学療法士会 北九州2地区研修会 症例検討会 (平成31(2019)年2月)
	【その他】
	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県理学療法士会 北九州地2区 学術運営委員 (平成29(2017)年～平成31/令和元(2019)年) ・日本理学療法士協会 理学療法診療ガイドライン システムティック・レビュー班 班員 (平成30(2018)年3月～現在に至る) ・北九州肩関節研究会 世話人 (平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月) ・福岡県理学療法士会 学術教育研修部 部長 (平成31/令和元(2019)年～現在に至る)
所属学会	<ul style="list-style-type: none"> 日本理学療法士学会 会員 (平成23(2011)年4月～現在に至る) 日本肩関節学会 準会員 (平成25(2013)年10月～現在に至る) 日本物理療法学会 会員 (令和2(2020)年5月～現在に至る)
受賞歴	第29回 福岡県理学療法士学会 優秀賞 (平成31(2019)年2月)

所 属	九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科
担 当 科 目	〔リハビリテーション学部 理学療法学科〕 <ul style="list-style-type: none"> ・神経・筋障害系理学療法Ⅰ、神経・筋障害系理学療法Ⅱ ・中枢神経疾患理学療法Ⅰ、中枢神経疾患理学療法Ⅱ ・神経・筋疾患理学療法 ・高次脳機能理学療法 ・食と農園 ・スタートアップ教育Ⅰ、スタートアップ教育Ⅱ ・理学療法ゼミナールⅠ、理学療法ゼミナールⅡ、理学療法ゼミナールⅢ ・臨床実習Ⅰ、臨床実習Ⅱ、臨床実習Ⅲ、臨床実習Ⅳ ・理学療法卒業研究 ・理学療法総合演習 ・理学療法研究法演習Ⅱ 〔東筑紫短期大学 専攻科（介護福祉専攻）〕 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉住環境論
専 門 分 野	■ 中枢神経系理学療法学
最 終 学 歴	九州栄養福祉大学大学院 健康科学研究科 (平成 30(2018)年 3 月)
学 位	修士 (健康科学；九州栄養福祉大学大学院)
職 歴	医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院 (平成 13(2001)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助手 (平成 30(2018)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 助教 (助手兼務) ○神経・筋障害系理学療法 担当 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	○理学療法士養成校の学生の臨床実習教育 (平成 16(2004)年 5 月～平成 26(2014)年 7 月) ○九州栄養福祉大学 中枢神経障害系理学療法Ⅱ Teaching Assistant (平成 28(2016)年 8 月) ○九州栄養福祉大学 中枢神経障害系理学療法Ⅱ Teaching Assistant (平成 29(2017)年 8 月)
主な研究活動	【論文】 1. 早川智之, 遠藤正英, 江崎 健, 元村隆弘, 大峯三郎 : 「回復期リハビリテーション病棟入院中の脳卒中患者におけるエネルギー消費推定法の妥当性の検証」 九州栄養福祉大学紀要 14 : 131 - 138, 2017 2. 早川智之, 遠藤正英, 江崎 健, 元村隆弘, 大峯三郎 : 「回復期リハビリテーション病棟患者におけるエネルギー推定消費量と投与量の年代別特性」 九州栄養福祉大学紀要 15 : 43 - 52, 2018 3. 室井廣大, 早川智之, 川口千尋, 榮 元希, 鍵中信一, 石橋敏郎, 大丸 幸 : 「学生相談窓口から見てきた学生ニーズ - 新入生面談との比較 -」 九州栄養福祉大学紀要 15 : 217 - 226, 2018 4. 早川智之, 河上淳一, 烏山昌起 : 「国家試験揭示による学習支援の実践」 九州栄養福祉大学紀要 16 : 51-56, 2019 5. 廣滋恵一, 四元孝道, 井元 淳, 早川智之 : 「本学リハビリテーション学部学生の社会人基礎力調査について ～卒業時の社会人基礎力自己評価と GPA・臨床実習成績との関連～」 九州栄養福祉大学紀要 16 : 7-16, 2019 6. 井元 淳, 中藤佳絵, 梅野和也, 烏山昌起, 早川智之, 石橋敏郎, 大峯三郎 : 「理学療法士模擬試験成績を活用した学習指導効果の評価」 九州栄養福祉大学紀要 16 : 37-42, 2019

	<p>7. <u>早川智之</u>、大峯三郎、奥田憲一、吉田遊子、河上淳一 :「理学療法学科の学内実習における学生満足度調査」 九州栄養福祉大学紀要 17 : 25-30, 2020</p> <p>8. <u>早川智之</u>, 遠藤正英, 江崎 健, 元村隆弘, 大峯三郎 :「回復期リハビリテーション病棟脳卒中患者におけるエネルギー消費量の実態」 理学療法福岡 34 : 85-89, 2021</p>
	【学会発表】
	<p>1. <u>早川智之</u> :「回復期病棟における退院前訪問のあり方-退院後の住宅改修・福祉用具の使用状況より-」 第 25 回九州理学療法士・作業療法士合同学会 2002 : 134, 2002</p> <p>2. <u>早川智之</u>, 猪野嘉一, 森山雅志 :「当院回復期病棟から維持期病棟転棟患者の経過について」 リハビリテーション・ケア合同研究大会 2008 : 175, 2008</p> <p>3. 當田恭兵, 猪野嘉一, <u>早川智之</u> :「在宅復帰後に能力の改善が見られたギランバレー症候群の一例～退院後の活動内容の変化～」 第 15 回全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会研究大会プログラム・抄録集. 15 : 202, 2010.</p> <p>4. <u>早川智之</u> :「当院の入院時の栄養摂取状況とリハビリテーションの関係」 静脈経腸栄養. 27, 6 : 1428, 2012</p> <p>5. 柴田康丈, 森田和弥, 遠藤正英, <u>早川智之</u>, 猪野嘉一 :「1 か月当たり 13 単位での介入に移行後 2 か月目までの経過について」 リハビリテーション・ケア合同研究大会 2012 : 152, 2012</p> <p>6. <u>早川智之</u>, 遠藤正英, 江崎 健, 元村隆弘, 大峯三郎 :「回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者における栄養状態別のエネルギーバランス」 第 36 回私立医大理学療法士研究会 (2018)</p> <p>7. <u>早川智之</u>, 遠藤正英, 江崎 健, 元村隆弘, 大峯三郎 :「回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者における栄養状態別の身体活動の特性」 第 28 回福岡県理学療法士学会 : 69, 2019</p> <p>8. <u>早川智之</u> :「回復期リハビリテーション病棟の脳卒中患者におけるエネルギーバランスの関連性」 第 34 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (2019)</p> <p>9. <u>早川智之</u>, 河上淳一, 白石大地, 烏山昌起, 田川善彦 :「肩インピンジメント症候群における肩関節挙上時の上腕骨を上方偏位させる筋と力の解明」 第 29 回福岡県理学療法士会学術集会 (2020)</p> <p>10. 古里詩織, 吉村雅史, 有菌瑛紀, 平岡千尋, 脇坂成重, <u>早川智之</u>, 遠藤正英 :「回復期脳卒中患者における歩行自立度と身体活動量の傾向調査」 第 29 回福岡県理学療法士会学術集会 (2020)</p> <p>11. <u>早川智之</u>, 吉村雅史, 有菌瑛紀, 佐藤 匠, 久保田勝徳, 遠藤正英 :「回復期リハ病棟の脳卒中患者における入棟早期の栄養状態は身体活動量に影響するか」 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (2020)</p> <p>12. 荒木悠平, 脇坂成重, 道下純子, 古里詩織, 吉村雅史, 平岡千尋, <u>早川智之</u>, 遠藤正英 :「行動変容を目的とした運動教室が回復期脳卒中患者の運動に対する自己効力感と活動量に 及ぼす影響について」 第 30 回福岡県理学療法士会学術集会 (2021)</p>
主な社会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒予防教室実務 (平成 27(2015)年 3 月) ・福岡県理学療法士会選挙管理委員 (平成 28(2016)年 6 月～令和 2(2020)年 6 月) ・平成 28 年 7 月度 NPO 法人 FSA 研修会 講師 (平成 28(2016)年 7 月) ・健康 (口) 栄養相談ボランティア (平成 28(2016)年 10 月)

	・北九州マラソン2017（医療・救護）ボランティア	（平成29(2017)年2月）
	・第5回リハ栄養セミナー実行委員	（平成29(2017)年3月）
	・平成29年7月度NPO法人FSA研修会 講師	（平成29(2017)年7月）
	・第1回PTOTSTのためのリハ栄養勉強会講師	（平成29(2017)年11月）
	・第2回PTOTSTのためのリハ栄養勉強会講師	（平成30(2018)年2月）
	・九州理学療法士・作業療法士合同学会2018抄録査読	（平成30(2018)年4月）
	・平成30年6月度NPO法人FSA研修会 講師	（平成30(2018)年6月）
	・第5回予防理学療法学会学術大会運営スタッフ	（平成30(2018)年10月）
	・九州理学療法士学術大会2019抄読査読	（令和元(2019)年5月）
	・全国リハビリテーション学校協会九州沖縄ブロック研修会運営委員	（令和元(2019)年5月～現在に至る）
	・公益社団法人福岡県理学療法士会広報部部長	（令和元(2019)年8月～現在に至る）
	・全国リハビリテーション学校協会学術委員	（令和元(2019)年10月～現在に至る）
	・福岡県理学療法士会第4回臨床実習指導者福岡県講習会世話人	（令和元(2019)年10月）
	・第9回日本リハビリテーション栄養学会学術集会実行委員	（令和元(2019)年11月）
	・第1回装具連携の会合同大会運営委員	（令和2(2020)年1月）
	・周望学舎 転倒予防教室 講師	（令和2(2020)年10月）
所属学会	日本臨床栄養代謝学会	（平成24(2012)年～現在に至る）
	日本理学療法士学会	（平成25(2013)年～現在に至る）
	日本リハビリテーション栄養学会	（平成29(2017)年～現在に至る）